
デジモン魂～万事屋と選ばれし子供たち～

牙王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモン魂〜万事屋と選ばれし子供たち〜

【Nコード】

N2766N

【作者名】

牙王

【あらすじ】

ある日、銀さん達万事屋は依頼の報酬でパソコンを買ってきたが、突然そのパソコンが光り出し、見知らぬ世界デジタルワールドに来てしまうそして、元選ばれし子供たちと現選ばれし子供たちに出会う

プロローグ（前書き）

はじめまして。デジファンといたします。初めての創作小説なので、下手ですけど温く見てくれるようお願いします。

プロローグ

プロローグ

デジタルワールドの暗闇で大多数の人影が話し合っていた。

??? 「糞が！あの選ばれし子供たちが邪魔をしなければ、今頃デジタルワールドは俺のものだったのに！」

??? 「フフフ、それはここに居る者全員同じだ。」

??? 「我らが神よ、聞いてもらっちゃったんですか。」

??? 「今ここに居る者達はかつて選ばれし子供たちによって倒された者達だ。我が力はどうか？」??? 「はい、生き返ったばかりか、究極体をも超えるちからを手に入れてとてもよいです。」

??? 「ならば、その力で、選ばれし子供たちに復讐してくるのだ！」

プロローグ（後書き）

結局、???しか喋らなかつたけど、次回は、主人公達ができるので
お楽しみに!!

万事屋と選ばれし子供達（前書き）

一生懸命頑張ったけど、やっぱり5ページが越えられないので次回は5ページまで書けるようにします。

万事屋と選ばれし子供達

〔歌舞伎町〕

新八「銀さん、どうするんですかパソコンなんて買ってしまっ
つかくの報酬がパーじゃないですか！」

銀時「あーあー聞こえねー。買ったもんはしょうがねーだ
ろ。それに、ネットでHP作って宣伝できるだろうが」

新八「誰が作るんですかHP」

神楽「もちろん新八に決まってるアル」

新八「言うと思ったけど、僕、無理ですよ！」

銀時「大丈夫だ、八っあんなら」

新八「はあ、まあ説明書読めば大丈夫かな」

銀時「お、もうきてるじゃねーか。」

新八「は、速すぎでしょ！今、さっき買ったんですよ！！」

神楽「決まってるネ。作者が、このままだと話が進まないからさ
さととばしたからアル。」

新八「止めて、本編に関係ないこと言わないで！」

銀時「新八、そんな奴ほつといて、さつさとパソコンを立ち上げ
ぞ。」

いつの間にか、パソコンを段ボール箱から出していた。すると、新
八が、あることに気付いた。

新八「銀さん、もう電源ついてますよ？」

銀時「あ？まだ、コンセント入れてねーぞ。」

すると、パソコンの画面から光が出てきて、部屋中を光が満たした。
全員「わ〜〜〜……」 光が消えると部屋には、だれもいなかった。

銀さん達が、パソコンを買う数日前、デジタルワールドでは……
〔デジタルワールド〕

大輔「暇だ〜！」

ブイモン「アーマゲモンの時以来ずっと何もおきてないからね」

太一「大輔、何も起きていないならそれにこしたことはないだろ？」
ヒカリ「そうよ、大輔君、ブイモン」

大輔「太一さん、ヒカリちゃん。でもよ〜」ゴゴゴ…
大輔「な、なんだ！」

ブイモン「地震だよ!!!」

太一「デジタルワールドで地震なんておかしい」

テイルモン「あっちから邪悪な気配がする」

大輔「何!? あそこはムゲンマウンテンか!」

太一「アグモン、太一、ブイモンいくぞ! ヒカリは光四郎達に伝えてくれ!」

ヒカリ「分ったわ」

太一「ブイモン、久しぶりにいくぜ!」

ブイモン「分かった!」

すると、大輔は、D-3をだした。

ブイモン「ブイモン、アーマー進化! 轟く友情! ライドラモン!」

ライドラモン「大輔達乗って」

ブイモンからアーマー進化したライドラモンに乗って、ムゲンマウンテンへ向かう太一達だった。

その頃、ヒカリ達は…

タケル「ヒカリちゃん!」

ヒカリ「タケル君、みんな!」

タケル「話は、分かった。急いで、ムゲンマウンテンへいこう!」

ヒカリ「ええ、わかってるわ。」

光四郎「待ってください!」

京「泉先輩どうしたんですか?」

光四郎「他の場所からも、邪悪な反応があるんです!」

テントモン「光四郎はん、うそでしゃっろ!?!」

光四郎「本当だ。」

丈「よし、なら分かれて向かおう!

伊織「なら、こうしましょう。一乗寺さん、ヤマトさんはムゲンマ

ウンテンへ、僕とタケルさん、丈さん、光四郎さんは東の反応にヒカリさん、京さん、ミミさん、空さんは西の反応に行くというのはどうでしょう?」

光四郎「よし、伊織くんの案で行こう! 皆さん決して無理はしないで下さいね。」

全員「はい!」

選ばれし子供たちはこうして、それぞれの反応に向かっていった。その頃、太一達は…

ライドラモン「大輔、あれ!」

大輔「ああ、いかにもって感じだな。」

大輔たちのまえには、禍々しい感じの大きな門たっていた

太一「いつの間に関てたんだこんなもの?」

大輔「とりあえず、この門をあけましょう、太一さん。」

太一「ああ、そうだな。」

大輔は力一杯開けようとするが、やはり、あかなかった。

大輔「しょうがね!ライドラモン!」

ライドラモン「おう!ブルーサンダー!」ライドラモンは必殺技を門に放ったが、傷一つつかなかった。

太一「アグモン、お前も進化するんだ。」

アグモン「うん、わかった太一。アグモン進化!グレイモン!」

太一「よし、いけ!」

グレイモン「メガフレイム!」

ライドラモン「ブルーサンダー!」

二つのわざを門に向かって撃ったが全く効果がなかった。

万事屋と選ばれし子供達（後書き）

キャラクターが多すぎて、みんなに台詞がつけにくい。から必ず何人かが登場シーンがないキャラクターが多いので分けるようにしました。

銀さんと大輔たち（前書き）

この間、5ページ位まで書けるようにしますといいましたが、この作品は、毎回2〜3ページ位で書くようにしました。

銀さんと大輔たち

大輔と太一が謎の門で立ち往生しているとき、その近くの森で、銀さん達は倒れこんでいた。

銀時「つてえ一体何だつていうんだ。」

新八「う…ううん、銀さん？」

銀時「起きたか、新八」

銀時「神楽はどこいったんだ？」

新八「さあ？つていうかここ、どこですか！？僕達確かに 店の中にいましたよね！？」

銀時「まあ、落ち着け、とりあえず神楽を探…」

言葉を途中で止める銀時

新八「どうしたんですか？銀さん？」

新八も気になり、うしろを向くと、そこには、サイに見えるが実際サイの三倍はあり、背には、黒光りしている鱗があった。

銀時「何だ、あれ！」

新八「サ、サイでしょ多分…」銀時「馬鹿、あんなでかくねーし、鱗もついてねーだろうが！」

新八「と、とりあえず何もしなければ襲つてこないは…」新八が言い切る前に、上から何かが落ちてきた

神楽「飯、ゲットアル」

二人「馬鹿ーーーーー！」神楽「あ、銀ちゃん達起きたアルか。そこで待っているネ。今、この、サイを倒してサイ飯作るネ。」

二人「待てーーーーー！！！」

銀時「お、落ち着け神楽！それは、サイじゃないぞ！」
すると神楽は、傘を下ろした。

神楽「なんだ、サイじゃなかったアルか残念ネ。」

新八「見りゃ、わかるでしょ！？」

銀時「お、おいあいつ、仲間呼びやがったぞ！！！」

新八「うそー!!?どうすんですか銀さん!?!」

銀時「決まってるだろ、逃げる!」

そういうと、三人は後ろを向くと全力で、走った。

しかし、差がつくどころか、どんどん距離が縮まってい

銀時「もう、駄目か!?!」

二人が、目を瞑った瞬間。

ガブモン「ガブモン進化!ガルルモン!」

ワームモン「ワームモン進化!ステイングモン!」

ガルルモン「フォックスファイヤー!」

ステイングモン「スパイクングフィニッシュ!」

ヤマト「相手はモノクロモンだから、ガルルモン、威嚇だけでいいぞ!」

ぞ!」

一乗寺「ステイングモンもだぞ!」

ガルルモン、ステイングモン「分かった!」

そうして、ガルルモン、ステイングモンはモノクロモンの群れを追

い払うと、銀さん達に近づいた。

一乗寺「大丈夫ですか!?!」

新八「は、はい!」

ヤマト「お前たち、選ばれし子供たちなのか?」

銀時「あ?選ばれしなんだって?」

一乗寺「ヤマトさん、今それどころじゃないですよ!急ぎましょう。」

」

ヤマト「あ、ああそうだな、ガルルモン頼む。お前たち、急いでデ

ジタルワールドから出るんだいいな!」

そう言い残すと、ヤマトたちは、去っていった。

新八「今の子供がデジタルワールドって言ってましたね。」

銀時「一体どうなってるんだ?」

すると、神楽は岩に小さな裂け目を見つけて、触れようとしていた。

銀時「おい、神楽変なもんに触れんなよ。」

だが、時遅くすでに触ってしまっていた。

神楽「銀ちゃん、すまんアル。もう触っちゃったネ。」

二人「この、馬鹿やろう！」と、二人は、神楽の頭をハリセンでぶつ叩いた。

小さな裂け目は大きくなり、そのまま銀時たちを吸い込んでしまった。

くムゲンマウンテンく

大輔「どうしましょう太一さん？」

太一「うーん、しょうがないグレイモン、超進化だ！」

グレイモン「分かった！グレイモン、超進化！メタルグレイモン！」

大輔「よし！いくぞ！」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー！」

ライドラモン「ライトニングブレード！」

完全体の力をもってしても門はヒビ位しかつかなかった。

大輔「ちつくしょう！メタルグレイモンでもだめなのかよ！？」

太一「いや、門にヒビがはいったんだ、どうにかなる！」

ヤマト「大輔ー！」

太一「ヤマト！、一乗寺！」

ヤマト「太一、何なんだ、この門は！？」

太一「知らねえ、だけどこの先に何かいる！」

ヤマト「なら、こんな門を壊してさっさと進むぞ！」

大輔「一乗寺！ジヨグレスだ！」

すると、ライドラモンはブイモンに退化した。

ヤマト「ガルルモン超進化だ！」

ガルルモン「ヤマト、わかった！」

ワームモン「ワームモン進化！ステイングモン！」

ブイモン「ブイモン進化！エクスブイモン！」

ステイングモン・エクスブイモン「ジヨグレス進化！パイルドラモン！」

大輔「よし！一斉攻撃だ！」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー！」

ワーガルルモン「カイザーネイル！」

パイルドラモン「デスペラートブラスター！」

門は三体の完全体の必殺技で粉々になっつてがれきの山になった。

太一「さあ、急ぐぞ！」

太一達は、がれきの山を越えて奥へ進んでいった。

しかし、この後太一とヤマトは、あの最悪のデジモンに再び戦う事になる……

銀さんと大輔たち（後書き）

作者《今回から後書きでは、作品に出てくるキャラクターと談笑や次回予告などをする事にしました。今回は、太一と銀さんです。》

銀さん《おい、作者。聞いていいか？》

作者《何です？》

銀さん《太一達のデジモンは、紋章がないと完全体になれなかったハズじゃねーのか？》

作者《それについては、太一から話します。》

太一《俺達のデジモンが完全体になれるのは、この話しが始まる前に、チンロンモンから、アグモンに力を授かったからなんだ。》

作者《っていうか、銀さん、なんで知ってんの？》

銀さん《アニメ見たから》

作者《見たんだ！？アニメ！？》

太一《次回は、ヒカリ達の話だな。》

銀さん《俺たちもいい加減、活躍させろよ？》

作者《頑張ります（汗）

謎の門とすべてを飲み込む闇（前書き）

すみません。銀さん達の出番がなかなかつくれません。
次の回は、ようやく銀さんの出番ができそうです。

謎の門とすべてを飲み込む闇

太一達が、なんとか謎の門を破壊し先に進んでいた頃、ヒカリ達は…
「西の火山地帯」

空「な、何あれ!？」

ヒカリ「この門、とても強い暗黒の力を感じる。」

京「とりあえず、こんなもの、壊してしまいましょ!」

ミミ「そうね。薄気味悪いしね。」

京・ヒカリ「デジメンタルアップ!」

ホークモン・テイルモン「ホークモン・テイルモンアーマー進化!
羽ばたく愛情!ホルスモン!微笑みの光!ネフェルティモン!」

パルモン・ピヨモン「パルモン・ピヨモン進化!トゲモン!バード
ラモン!」

バードラモン「メテオウイング!」

トゲモン「チクチクバンバン!」

ネフェルティモン「ロゼッタストーン!」ホルスモン「テンペスト
ウイング!」

トゲモン「駄目全然効かないわ。」

ホルスモン「どうします？」

ネフェルティモン「完全体じゃないととても壊せないわ！」

バードラモン「空、お願い！」

空「ええ、わかってたわ！」

ミミ「みんな、完全体でいくわよ！」

京「分かりました。ヒカリちゃん！」

ヒカリ「ええ、ジョグレスね！」

ホルスモンとネフェルティモンは、ホークモンとテイルモンに退化した。

バードラモン「バードラモン、超進化！ガルダモン！」

トゲモン「トゲモン、超進化！リリモン！」

ホークモン「ホークモン、進化！アクイラモン！」

アクイラモン・テイルモン「アクイラモン！テイルモン！ジョグレス進化！シルフィーモン！」

ガルダモン「シャドーウイング！」

リリモン「フラウカノン！」

シルフィーモン「トップガン！」

門は、あっという間に、ガレキの山になった。

空「急ぎましょう！」

ヒカリ「待って、空さん！」

空「え？」

ガルダモン「空ー！」

空が、進もうとした瞬間に闇が、空とガルダモンを飲み込んでしまった。

全員「空さん！？きゃー！！！」

闇は、空を飲み込んだ後、次は京達を飲み込もうとした。

シルフィーモン「トップガン！」

リリモン「フラウカノン！」

闇は2体の完全体の必殺技を簡単に飲み込んでしまった。
ミミ「そ、そんな！？」

京「嘘でしょ！？」

シルフィーモン「ど、どうすればいいんだ！？」

一瞬、シルフィーモン達が動揺した瞬間に、闇はシルフィーモンたちをのみこんでしまった。

〔西の火山地帯〕

銀時「いって、俺ら今日二回目だぞ気絶すんの。」

新八「本当ですね。もう、神楽ちゃんがへんな物触るからってあれ？神楽ちゃん？」

神楽「銀ちゃん、何これ？」

銀時「あ？これ、どうみても門じゃねーか。かなり、馬鹿でかいけどな。」

新八「でも、なんだか、不気味な門ですね。」

光四郎「あなた達、そこで何をしているんですか!？」

後ろから、カブテリモンとペガスモン、アンキロモンとイツカクモンに乗った光四郎、伊織、タケル、丈が迫ってきた。

新八「な、何あれ!？」

銀時「知らねーけど取りあえずにげろ!」

神楽「あっちょうどいい穴あったアル。」

神楽が、指差していたのは、黒い裂け目だった。

銀時「取りあえず、こん中に入るぞ！」

新八「は、はい!!！」

黒い裂け目は、銀時達が入った後、消えってしまった

伊織「今の人達は一体？」

タケル「そんな、事よりこの門の先に反応があるんだ急ごう！」

すると、タケルのDターミナルにヤマトから、メールが来た。

タケル「あ、おにいちゃんからだ。太一さん達と合流したらしい。」

光四郎「タケルくん、ヤマトさんにそちらに、巨大な門があるか聞いてみてください。」

タケル「光四郎さん、あつちにもあつたそうです。だけど、完全体三体の力でなんとか、突破したらしいです。」

丈「完全体三体でなんとかなんて、とんでもない強度だな!？」

伊織「でも、このメンバーなら大丈夫です。タケルさん、！」

タケル「うん！」

ペガスモンは退化して、パタモンになった。

丈「イッカクモン！」

光四郎「カブテリモン！」

カブテリモン「はいな！」

イツカクモン「任せろ！」

パタモン「パタモン進化！エンジエモン！」

アンキロモン・エンジエモン「アンキロモン、エンジエモンジョグレス進化！シャッコウモン！」

カブテリモン「カブテリモン進化！アトラーカブテリモン！」

イツカクモン「イツカクモン進化！ズドモン！」

タケル「頼んだぞ、シャッコウモン！」

シャッコウモン「任せろだぎゃあ」

光四郎「アトラーカブテリモン！お願いします！」

アトラーカブテリモン「任せてくれなはれ！」

丈「ズドモン、いつけー！」

ズドモン「おう！」

シャッコウモン「アラミタマ！」

アトラーカブテリモン「ホーンバスター！」

ズドモン「ハンマースパーク！」

門は、ゴゴゴゴオーと音がしながら崩れていった。

伊織「やった！」

丈「さあ、先を急ごう！」

光四郎（あの人は一体何者だったんだ…？）

この時、光四郎達はその人物と深く関わることを知る由がなかった……。

謎の門とすべてを飲み込む闇（後書き）

作者「えー今回は、大輔とブイモンがゲストです。」

大輔「どうも、大輔です。」

ブイモン「ブイモンです。」

作者「さて、今回はどんな話を…」

銀さん「ちょっと待てー！」

作者「うわっ！あんたは、前回出たからダメだろ！」

銀さん「やかましい！本編で、出番ないからここで目立ってやる！
文句あるなら出番よこせ！」

作者「しょうがないな。では、気を取り直していくか！」

大輔「にしても、ようやく敵らしいのが出てきたな。」

作者「ふっふっふ。そろそろどんどん敵をだしていくぞ。」

ブイモン「なあ、ずっと気になってたんだけど、第三話でかいつて
た敵ってだれ？」

作者「名前は言えないが、あの懐かしいデジモンだ。」

銀さん「まっまさかあのデジモンか！？」

作者「そうだ、あのデジモンだ！」

大輔「あのデジモンってどいつだよ！」

作者「お前も、太一から聞いているはずだぞ？アニメの17話で多分」

ブイモン「俺、わかった！」

大輔「???」

作者「では、また次回！」

万事屋とあの暗黒デジモン（前書き）

ようやく、銀さんが活躍します。

そして、登場させてほしい人物、デジモンを募集します。

オリジナルでもいいですけど、その場合は、詳しく書いて下さい。
感想にどしどし書いて下さい。

締め切りは、今月まで！

万事屋とあの暗黒デジモン

太一達に続いて、ヒカリ達とタケル達も謎の門を破壊できた。しかし、ヒカリ達は謎の闇になす術なく呑み込まれてしまった。そんな事がおきているとは知らない太一達は、ムゲンマウンテンのふもとにきていた。

「ムゲンマウンテン」

太一「おかしいな？」

アグモン「太一、どうしたの？」

太一「ヒカリと連絡がつかないんだ。」

一乗寺「京さん達にもつながらない。」

大輔「ヒカリちゃん達になにかあったんじゃない？」

ヤマト「一旦、戻ろう！」

太一「ああ！」

「????」「フッフ、安心しろ。小娘らは、私が預かっている。」

太一「だれだ！？姿を見せろ！」

「????」「ハハハ、いいだろう。覚えているかな？」

ヤマト「お、お前は…」

太一「デビモン!?」

デビモン「ハハハ、覚えていてくれたか」

大輔「デビモンって、太一さん達がファイル島で闘ったっていう!?」

ヤマト「そうだ。だが、あいつはエンジェモンと差し違えたはず! 何故だ!」

デビモン「ハハハ、お前に復讐するために地獄から蘇ったのだ!」

太一「なら、もう一度、地獄に落としてやるぜ!」

デビモン「やってみろ。ハハハ」

太一「アグモン!」

ヤマト「ガブモン!」

大輔「ブイモン!」

一乗寺「ワームモン!」

アグモン「アグモン進化! グレイモン!」

ガブモン「ガブモン進化! ガルルモン!」

ブイモン「ブイモン進化! エクスブイモン!」

ワームモン「ワームモン進化！ステイングモン！」

ヤマト「昔の俺達と思うな！行け！ガルルモン！」

ガルルモン「フォックスファイヤー！」

グレイモン「メガフレイム！」

エクスブイモン「エクスレイザー！」

ステイングモン「スパイキングフィニッシュ！」

デビモン「ふん！」

デビモンは、軽々と両腕でグレイモン達の技を弾いた

デビモン「その程度かデスクロー！」

全員「ぐわー！？」

一乗寺「な、強い！？」

太一「グレイモン、一気にいくぞ！超進化だ！」

グレイモン「おう！」

ヤマト「ガルルモン、お前も超進化だ！」

ガルルモン「ああ！」

大輔「一乗寺！ジヨグレスだ！？」

一乗寺「わかった！」

グレイモン「グレイモン超進化！メタルグレイモン！」

ガルルモン「ガルルモン超進化！ワーガルルモン！」

エクスブイモン・ステイングモン「エクスブイモン！・ステイング
！モンジヨグレス進化！パイルドラモン！」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー
！」

ワーガルルモン「カイザーネイル！」

パイルドラモン「デスペラートブラスター！」

デビモン「ぐはっ！？完全体に進化できるようになったのか」

太一「どうだ！」

大輔「次で決めてやる！」

ヤマト「まで、何かおかしい。」

デビモン「ククク、そろそろ本気でいくぞ。デビモンワープ進化！
マリシヤスデビモン！」

一乗寺「な、何！？進化した！？」

太一「みんな、一斉攻撃だ！」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー！」

ワーガルルモン「カイザーネイル！」

パイルドラモン「デスペラートブラスター！」

Mデビモン「効かぬわ！ヴェロツサヘルクロー！」

メタルグレイモン「ぐわー！」

ワーガルルモン「強過ぎる！」

ワーガルルモンとメタルグレイモンはガブモンとアグモンに退化してしまった。

太一「ああ！？アグモン！？」

ヤマト「ガブモン！？」

一乗寺「同じ完全体じゃないのか！？」

ヤマト「い、いや、あいつは、ワープ進化と言った。恐らくあれは……」

太一「究極体だ！」

大輔「なら、完全体じゃ不利だ！パイルドラモンこっちも究極体に

進化するんだ！」

パイルドラモン「おう！パイルドラモン究極進化！インペリアルドラモン！」

太一「アグモン、大丈夫か！？」

アグモン「うん、なんとか、太一僕も究極体に進化させて！」
ガブモン「俺も究極体に！頼むヤマト！」

ヤマト「分かった！無茶はするなよ？」

アグモン「アグモンワープ進化！ウォーグレイモン！」

ガブモン「ガブモンワープ進化！メタルガルルモン！」

Mデビモン「ふ、究極体にもなれたか。しかし、私を倒せるかな？」

大輔「なら、見せてやる！行け！インペリアルドラモン！」

太一「俺達の全力でぶつけるんだ！ウォーグレイモン！」

ヤマト「今度こそ、消滅させてやれメタルガルルモン！」

IPドラモン「ポジトロンレーザー！」

ウォーグレイモン「ガイアフォース！」

メタルガルルモン「コキュートスプレス！」

Mデビモン「ヴァージニア・インフェルノ！」

太一達「ぐわー！？」

Mデビモンの必殺技は、ウォーグレイモン達の必殺技を軽々と押し返した。

あまりのダメージにウォーグレイモン達は幼年期に退化してしまった。

大輔「つ、つえー。」

太一「そんな、究極体が三体揃っても勝てないなんて。」

ヤマト「くそー。」

Mデビモン「ククク、これで終わりだ！ヴェロッサヘルクロー！」

Mデビモンが、トドメをさそうとした時、端の茂みから人影が飛び出した。

銀時「この野郎！」

男は、腰に差してた木刀で、Mデビモンの爪を止めていた。

大輔「すげえー！」

太一「まさか、Mデビモンのヴェロッサヘルクローを木刀で止めるなんて！」

銀時「くそー！変な、穴に入ったら何か変な生物共が闘っている近くに出るし、新八達とはぐれるし。最悪だ！！！」

Mデビモン「な、何者なんだ、貴様は！」

銀時「あ？俺は万屋だ！」

太一「よ、万屋？」

Mデビモン「ふざけるな！！」

怒りで、Mデビモンのヴェロツサヘルクローが銀時を押し込んでいく。

銀時「やべ〜。やっぱ、無理か。だけど、ここで倒れる訳にはいかねーんだよ！」

その時、銀時の木刀が輝き始めた。

銀時「おらー！ー！！」

銀時が、Mデビモンのヴェロツサヘルクローを押し返して、腕を切り落とした。

Mデビモン「ば、馬鹿な！！」

ヤマト「すごい。究極体が三体でもかなわなかったMデビモンの腕を切り落とした！」

銀時「なんだ、こりゃ！？」

銀時の木刀は、何故か、機械仕掛けの大刀に変化していた。

Mデビモン」「くそ、ここはひとまず、ひくとしめろ。」

太一「まで、ヒカリ達を返せ！」

しかし、すでにMデビモンはそこには、いなかった。

万事屋とあの暗黒デジモン（後書き）

作者「どうも、ようやく、銀さんが活躍できました。これから、どんどん活躍してもらいます！さて、今回は光司郎と伊織です！」

銀さん「そして、おれだ。」

作者「えっ！お前は今回、活躍したからいいだろうが！」

伊織「まあいいじゃないですか、最初からでてるんだから、もうレギュラーにすればいいじゃないですか？」

作者「うーん、確かにじゃあ、もういつか。」

光司郎「では、僕ききたい事があるんですけど？」

作者「何？」

光司郎「前書きの募集なんですけど、あれって普通、もうちょっと進んでからしません？」

銀さん「どうせ、ネタが尽きはじめたんだろ？」

作者「失敬な！！実はですね、ストーリーに関わるので詳しくは語れないけど、この募集実は、君達のためなんだよ。」

伊織「それってもしかして」

アルマジモン「俺達の「はい、そこまで！」」

テントモン「まあとにかく、募集よろしく頼みます。あと、感想もよろしくな」

作者「今回は、タケル達大ピンチ！？しかし、そこに現れたのは…。

」

神楽とタケル達の大ピンチ（前書き）

え、銀さん達を強くし過ぎちゃいました。

注意書き

長い名前のデジモンは、省略しています。ご了承くださいませませませ
願います。

神楽とタケル達の大ピンチ

復活したデビモンがワープ進化した、マリシヤスデビモンにインペリアルドラモン、ウォーグレイモン、メタルガルルモンと共に闘う太一達。

だが、圧倒的力の差で追い詰められる。

しかし、茂みから出てきた銀時が木刀から変化した大刀でMデビモンの腕を切り落とし、なんとか危機を回避したが、ヒカリ達は捕らえられたままだった。

「西の火山地帯・奥」

ゴゴゴオ〜ドカアーン！

光司郎「な、何だ！？」

テントモン「あっちの方でかなり大きい爆発があったんや！」

伊織「あっちはムゲンマウンテン…とっいうことは、太一さん達に何かあったんですよ！」

丈「急いで、太一達と合流するんだ！」

「???」「行かせないわよ！ダークスピリッツ！」

ゴマモン「丈、危ない！」

丈「うわわ！この技は！？」

テントモン「まさか、エテモン！」

エテモン「うふ〜ん。アチキの事覚えてくれてたの？」

光司郎「そんな、馬鹿な！？あの時、サーベルレオモンとズドモンが倒したはず！」

エテモン「そんな事、アチキはどうでもいいのよ。それよりもアチキはあなた達に復讐できればいいのよ！」

タケル「光司郎さん、急いで倒して、太一さん達と合流しましょう！パタモン！」

光司郎「そうですね、テントモン！」

伊織「アルマジモン！」

丈「ゴマモン！」

パタモン「パタモン進化！エンジエモン！」

テントモン「テントモン進化！カプテリモン！」

アルマジモン「アルマジモン進化！アンキロモン！」

ゴマモン「ゴマモン進化！イツカクモン！」

エンジエモン「ヘブンスナックル！」

カブテリモン「メガブラスター！」

アンキロモン「テイルハンマー！」

イツカクモン「ハーブンバルカン！」

エテモン「ふん、その程度でアチキに勝てるとおもったの？連続ダークスピリッツ！」

イツカクモン達「ぐわー！？」

光司郎「相手は、完全体です！こちらも完全体にならないと！」

カブテリモン「カブテリモン超進化！アトラーカブテリモン！」

イツカクモン「イツカクモン超進化！ズドモン！」

アンキロモン・エンジエモン「アンキロモン・エンジエモンジョグレス進化！シャッコウモン！」

丈「完全体が三体揃ったんだ勝てるぞ！」

伊織「シャッコウモン頼みます！」

シャッコウモン「任せるだぎゃ！アラミタマ！」

アトラーカブテリモン「ホーンバスター！」

ズドモン「ハンマースパーク！」

エテモン「きゃ〜。三体ーなんて卑怯じゃない！な〜んつつてね。

見せてやるわアチキの本気を。エテモンワープ進化！テンペストエテモン！」

シャッコウモン「な、進化しただぎゃ！？」

ズドモン「えっでも！確かエテモンの究極体はメタルエテモンだったはず…」

丈「そのはずなんだけど。どういう事、光司郎！？」

光司郎「ないんです…。パソコンにあいつのデータがのってないんです…！」

アトラークブテリモン「そんな馬鹿な事があるかいな！？」

Ｔエテモン「そっちがこないなら、アチキからいくわよ！ラブセレナーデ・バルディッシュュ！」

タケル「ぐわー！？なんて、破壊力だ！」

ズドモン「しかも、どんどん力が抜けていく…！！」

Ｔエテモンが立っている場所にクレーターができていた。

ズドモン達はさっきのＴエテモンの必殺技で力を抜かされて幼年期まで退化されていた。

タケル「くっそう！光司郎さん、ここは退きましよう！」

丈「無理だよ！あいつの技でデジモン達は、もちろんぼく達も力を抜かされて歩けないよ…！」

Ｔエテモン「フフ、どうやらここまでのようね。これで、終わりよ！
ダークネス・スピリット！」

神楽「うるさいアル！さつきからこの猿公が！」

Ｔエテモンが技を放つ瞬間に空からなぜか、機嫌の悪い神楽が落ちてきてＴエテモンのダークネス・スピリットを打ち返した。

光司郎「う、嘘…！あの技を打ち返した！？」

タケル「あの人、あの門の前に立っていた人達の一人ですよ！」

Ｔエテモン「むっきー！なによ、あんた！」

神楽「私は、ただの万事屋ネ。おい、その赤毛、あいつは食えるアルか？」

光司郎「えっいや多分食えない…と思います。」

神楽「なら、興味ないアル。」

Ｔエテモン「ふざけないでよ！ラブセレナーデ・バルディシュ！」

神楽「うるさいアル！」

神楽は、一瞬でＴエテモンの前に立ち、持っている日傘でＴエテモンの頭を思いつき叩きつけた。

Ｔエテモン「そんな、アチキが、ただの人間に…！！覚えていなさ

「いよ！チャイナ娘が！」

すると、トエテモンは、闇にふらつきながら去っていった。

伊織「っ、つよい…！一体何者なんだ！？あの人…。」

神楽とタケル達の大ピンチ（後書き）

作者「え、今回はオリジナル敵デジモンの簡単な紹介します。」

マリシヤスデビモン

省略名デビモン

世代 ????

必殺技 ヴェロツサヘルクロー等

銀さん「なんで、世代不明なんだ？ワープ進化したなら究極体じゃないのか？」

作者「それはだな、オリジナル世代だからだ。」

銀さん「そーいや、究極体が三体でも勝てなかったしな。俺はかったけどな。なんていう世代にするんだ？」

作者「それはだな「ヴェロツサヘルクロー！」ぐはあー！！」

銀さん「ああ、なるほどストーリーに関わるから駄目なのか。」

作者（死）

銀さん「おい、死ぬな！？次回どうするんだよ！」

深まる謎と銀さんの新たな力(前書き)

なんと、早くも募集した。オリキャラ&mp;デジモン登場です。
是非、みてください！

深まる謎と銀さんの新たな力

タケル達は、ムゲンマウンテンの方で大きな爆発があった事を知り、太一達と合流しようするが、かつて倒したはずのエテモンが襲いかかった。

最初は三体の完全体で押し勝っていた様に見えたが、エテモンがテンプストエテモンにワープ進化し、タケル達は窮地に陥ったが、空から神楽が現れ楽々と追い返した。

同じ頃太一達と銀時は…

「ムゲンマウンテン」

大輔「あんた、一体何者なんだ！？究極体が三体でも勝てなかったあいつの腕を切り落とすなんて！？」

一乗寺「あなたは、あの時モノクロモンに追われていた人ですよね？」

銀時「ああっ！あの時の！」

太一「一乗寺、知っているのか？」

ヤマト「ここに来る前にモノクロモンに追われていたんだ。」

銀時「一体、ここは、どこなんだ？」

一乗寺「ここはデジタルワールドです。」

銀時「は？何て？」

一乗寺「だから、デジタルワールドです。」

銀時「デジタルワールドって何？」

大輔「デジモンが住む世界だよ。」

銀時「デジモン？」

太一「こいつらのことだ。」

そっぴいなながら、アグモンの頭を叩く

アグモン「そ、デジタルモンスター略してデジモン！」

全く話についてこれてない銀時

大輔「それよりも、なんで、木刀からそんな馬鹿でかい大刀になったんだ？」

銀時「知るか。勝手になったんだよ。あ、戻った。」

大刀は元の木刀に戻った。

太一「なあ、俺達と一緒に行動しないか？まだデジタルワールドに馴れてないんだろ？」

タケル「確かに、知らずにあっちこっちいったら危ないしどうだ。」

銀時「ま、新八達も探さないといけないから仕方ね。」

ブイモン「じゃあ、決まりだね。俺、ブイモンよろしく。」

ガブモン「俺は、ガブモン。」

アグモン「ぼく、アグモンよろしくね。」

ワームモン「僕、ワームモンよろしく。」

太一「八神太一だ。よろしく。」

大輔「俺は本宮大輔だ。」

ヤマト「ヤマトだ。」

一乗寺「一乗寺賢です。」

銀時「俺は、坂田銀時だ。万事屋をやっている。」

太一「自己紹介も終わった事だしヒカリ達を助けに行くぞ。」

ヤマト「まで、俺達だけでは勝てなかった事をもうわすれたか!？」

太一「なら、どうするんだよ!」

大輔「タケル達と合流しませんか?」

一乗寺「大輔君の言う通りです!一度、合流してから行きましょう。」

！」

????「そんな、ことさせないぞ！ジャツジメントアロー！」

銀時「何なんだ!？」

大輔「あいつは!？サジタリモン！」

サジタリモン「俺を知っていたか。お前達はここで倒されるのだ選
ばれし子供達！いでよ、ケンタルモン！」

すると、かなりの数のケンタルモンが太一達を囲んでいた。

太一「アグモン、進化できるか!？」

アグモン「うん。太一ごめん、さっきの戦いで力を全て使っちゃ
った〜。」

ガブモン「俺達もだよ〜。」

ヤマト「クソ〜万事休すか。」

銀時「もう一度、あの大刀になりやがれ！」

すると、木刀は、さっきの大刀に変化した。

銀時「よし！何とか連絡出来ないのか!？」

大輔「今、してる!！」

銀時「くそ、これ以上は無理だぞ!？」

サジタリモン「その程度か。フハハ…」

????「ザンコウ・スマツシュ!」

突然の一撃で、ケンタルモンの集団の三分の一にまで消し去った。

サジタリモン「な、何者だ!？」

ナイトオブラウンドモン「ナイトオブラウンドモンよ。覚えなくていいわよ。あなた達は、ここで消えるんだから。」

サジタリモン「何だと、消えるのは貴様のほうだ。ジャツジメントアロー!」

サジタリモンのジャツジメントアローはナイトオブラウンドモンに直撃した。

しかし、ジャツジメントアローの直撃を食らったにも関わらず平然としていた。

サジタリモン「そんな、馬鹿な俺のジャツジメントアローが!？」

近衛騎士「その程度の攻撃で、ナイトオブラウンドモンの鎧に傷がつくものか。見せてやれ、本当の必殺技というのを!」

ナイトオブラウンドモン「ええ、分かったわ。ムゲン・エクスキューション!」

Nドラモンが放った必殺技はサジタリモンとケンタルモンを跡形も

無く消し去ってしまった。

これが近衛騎士との最初の出会いだった…。

深まる謎と銀さんの新たな力（後書き）

作者「今回の話で早くも、募集したオリキャラ&デジモン登場しました。」

銀時「しかし、いくらなんでも早くないか？」

京「いーじゃない。別に。それよりも、早く、私をたすけなさいよ！」

作者「はい、はい次次回ぐらいにね。」

銀時「次回は、あとがきで近衛 騎士とナイツオブラウンドモンの紹介をするぜ。」

京「ビンゴ！わたし、気になってたのよね〜。近衛 騎士の事が。」

作者「では、また次回！」

超越体とタケル達との合流（前書き）

更新遅くなってすみません。

今回のあとがきは、応募デジモンの紹介です。

超越体とタケル達との合流

Mデビモンを何とか、撃退させた銀時達しかし、その直後にサジタリモンが率いるケンタルモン軍団が襲いかかった。

アグモン達はMデビモンとの戦いで力を使い切り、進化不能だった。

頼みの銀時もあまりの多さにだんだんと追い詰めてられていった。

しかし、その銀時達の窮地を救ったのは、ナイトオブラウンドモンと近衛騎士だった。

大輔「あのデジモン、ケンタルモン軍団をあつという間に倒しやがった!？」

太一「なんて、パワーだ!？」

ヤマト「あのデジモンの隣にいるのは…まさか!？」

一乗寺「ヤマトさん、あの人を知っているんですか？」

ヤマト「あいつは、近衛…騎士!!俺の…。」

ナイトオブラウンドモン「ふふん、あんたら弱すぎよ。たかが、この程度のデジモンに追い詰められるなんて。」

近衛「確かに、いくら超越体と闘った直後とはいえこの程度の相手に遅れをとるとはな。」

大輔「言いたいこといいやがってこの野郎！大体、超越体ってなんだ！？」

近衛「超越体を知らないのか？」

太一「お前は何か知っているのか！？」

Nラウンドモン「騎士、もういいでしょうこんな雑魚達に教えてやる必要ないわよ！」

近衛「ああ、そうだな…いくぞ。」

すると、後ろの森に消えていった。

一乗寺「ヤマトさん、彼の事知っているらしかっただけど一体何者なんでしょうか？」

ヤマト「あいつは、俺の…恩人なんだ…。」

太一「なんだって！？」

大輔「ヤマトさん、それってどういう事なんだ！？」

タケル「お兄ちゃんーん！

銀時「あれって、神楽！？」

神楽「銀ちゃん、まだしんでなかったアルか？チツ。」

銀時「おい、いま舌打ちしたな！？」

神楽「いやアルな。」

銀ちゃん「死ねば、この小説の主人公になれた…なぐんて考えつけないアル。」

銀時「ほほう、いい度胸だな？」

すると、銀時の木刀が大刀に変化した。

銀時「この、いつもいつも俺の買い置きしてあるチョコを食いやがって〜!!」

タケル「あの人達一体何者なんだ？」

太一「確かに…生身で究極体でも倒せなかった相手を追い返すなんて。」

大輔「そういえば、光司郎さん、超越体って何なんですか？」

光司郎「超越体？聞いたことないですねそんなの…。」

ヤマト「デビモンがワープ進化して、マリシヤスデビモンになったんだ。」

一乗寺「ウォーグレイモン、インペリアルドラモン、メタルガルルモンが、とても歯が立たなかつたんです。」

伊織「そんな、究極体が三体揃っても勝てなかつたなんて!!」

丈「こつちも、エテモンが、進化して追い詰められたんだけど、神楽さんに救われて…。」

光司郎「テントモン何か知っていますか？」

テントモン「いや〜ワテも聞いたことないですわ。」

太一「アグモンもか？」

アグモン「うん、知らない。」

光司郎「一体、超越体って何なんだ…？」

謎の世代に謎の少年とそのパートナーデジモンの正体は…？

次々とあらわれる謎の正体を太一達は明らかにできるのか？

超越体とタケル達との合流（後書き）

作者「さて、始めました。あとがきコーナー！」

銀時「今回は、応募デジモン、キャラクターを紹介するぞ。」

名前：ナイツオブラウンドモン

世代：超越体

種族人型デジモン

全長：2.2m

詳細：ブレイブデジクロム（デジタルワールドの最強鉱物）製の西洋甲冑や兜で身を包んだ騎士デジモン。ちなみに、性別は女性。

得意技は神々しいまでの光の力を刀身に集めて敵を一閃の下に薙ぎ倒す【ザンコウ・スマッシュ】。

必殺技は無数の神剣を喚び出して敵を串刺しにする【ムゲン・エクスキューション】

名前：近衛このえ騎士ナイト

年齢：15

性別：男子

容姿：生まれつき白髪のざんばらヘッドに淡い黒のクールな瞳、1

72cmのほどよく引き締まった体格で顔立ちはややワイルド系美男子、ラフな服装が主。

性格：気さくで優しいが、現在は、なぜか冷酷非情になっている。
武器：エクストブレードという、ナイツオブラウンドモンの鎧と同じ素材で出来ている剣を扱う。

剣道の有段者であり、全国大会で何度も優勝している経験を持つ青年
初めてデジタルワールドに来た時、ナイツオブラウンドモンに色々お世話になった過去を持つ。

趣味は朝の日課である鍛錬と母親から教わった料理で、特に料理の腕前はピカイチ。

ヤマトの恩人でもある。

作者「月光閃火さんどうも、ありがとございました。」

ヒカリ達救出作戦と謎の騎士（前書き）

約2週間も更新できなくてすみませんでした。
次からは、どんどん更新していきます。

ちなみに、あとがきコーナーはしばらくお休みします。

ヒカリ達救出作戦と謎の騎士

ヤマト「銀さん、神楽さん！今は、喧嘩している場合じゃないんですよ！」

太一「そうだ！急いでヒカリ達を助けないと！」

タケル「えっ！？それ、どういう事ですか！？」

大輔「実はヒカリちゃん達が、デビモン達に捕まったんだ。

タケル「なら、急いでヒカリちゃん達を助けないと！」

光司郎「そうですね。デジモン達も全員休んだ事ですし。」

ブイモン「ああ、俺達は全員体力満タんだぜ！なあ、みんな！」

デビモン達「任せて！！！」

太一「だけど、一体どこに捕らえられてんだ？」

ピュピュ...

光司郎「あつ、な、何だ！？とてつもない暗黒のパワーが、西の方に集まっています！」

大輔「もしかして、そこに...！」

太一「ああ、きっとそこにヒカリ達はある！とりあえず、いってみよう！」

全員「おうー！」

く西の森く

この森は以前は、青々としていた木々が今では、完全に枯れていた。

伊織「ひ、ひどい。あんなにきれいだった森が」

丈「きつと、あまりにも強烈な暗黒のパワーがこの森の木々を枯らしてしまっただ。」

伊織「許せません！あの森をこんな風にしてしまうなんて！！」

Mデビモン「ふふふ、ならば我々を倒してみる。」

Tエテモン「まあ、あんた達には、到底無理だけどね。」

銀時「あつ、てめーは、あん時の…！」

また、腕を斬られてみたいらしいな？」すると、銀時の木刀が大刀に変化した。

Mデビモン「ふん、またそれか？同じ失敗を私がする訳ないだろ。」

神楽「おい、猿公！今度は、絶対捕まえるアル。」

Tエテモン「ふん、この生意気な小娘めが、あの時は油断したけど、こんどは、絶対にあの時の屈辱をかえしてやるわ！」

太一「みんな進化だ！」

デジモン達「おう!?!」

「西のさらに奥にある洞窟」

新八「う、うん?」

ヒカリ「あ、目をさましたわ。」

新八「ここは、一体?」

ヒカリ「分からないわ。実は、私達も気づいたらここにいたの。」

テイルモン「ネコパンチ!」

ホークモン「フェザースラッシュ!」

ピヨモン「マジカルファイヤー!」

パルモン「ポイズンアイビー!」

テイルモン達「うわー!!」

京「大丈夫、みんな!?!」

ホークモン「ええ、でもこの檻、堅すぎて傷一つつきません。」

パルモン「進化さえできれば...」。

「ミミ」でも、デジヴァイスもDターミナルもとられてしまったわよ。

「

全員「はあ〜。」

新八「あの…。」

空「あつ、起きた?。」

新八「一体、あなた達は、何者なんですか?。」

ヒカリ「私達の事も教えるから、後であなたの事も教えてくれない?。」

新八「ええ、いいですけど。」

ヒカリ達はデジタルワールドの事、選ばれし子どもたちの事などを詳しく新八に話した。

その後、新八は自分の事を話して情報交換をした。

しかし、そんな新八達を遠くから見ていたデジモンがいた。

Nブラウンドモン「ね〜。なんで、騎士は、あいつらのこと気にしてんの?。」

騎士「昔、すこしあってな。まあ、この程度でやられたら、あいつらもただの雑魚といっしょだったということだ。」

Nブラウンドモン「ふ〜ん。あ、ちょっとまってよ!もう次元移動するの?。」

騎士(ヤマト、こんな所でやられたら、お前を救った価値がなくな

っっっまじんだから、せーらねっくねるなよー！)

激突！オメガモンVS MデビモンとIPドラモンVS Tエテモン（前書き）

今回は、なんと三連続更新です。今までの遅れをこれから取り戻していきます。

どうぞ、よろしく願います。

激突！オメガモンVS MデビモンとIPドラモンVS Tエテモン

（西の森）

太一「みんな、最初から、全力でいくぞ！！ウォーグレイモン！」
Wグレイモン「分かった、太一！！」

ヤマト「オメガモンだな！！メタルガルルモン！」

Mガルルモン「ヤマト、任せて！！」

二人のデジヴァイスが光り輝きWグレイモンとMガルルモンが合体した。

オメガモン「ガルルキャノン！」

Mデビモン「ハハハ、その程度か？」

大輔「パイルドラモン、インペリアルドラモンに進化だ！」

Pドラモン「分かった、パイルドラモン、究極進化！インペリアルドラモン！」

IPドラモン「ポジトロンレーザー！」

Tエテモン「あんたの相手はアチキがするわ！ダークネススピリッツ！」

IPドラモン「グワァー！！！」

大輔「インペリアルドラモン、大丈夫か!？」

IPドラモン「何とかないけるけど。やっぱり、あいつら強い!」

Mデビモン「ハハハ、お前達と我々では格が違うのだ!」

銀時「ああ、そうだな。俺とお前じゃ格が違いな。」

Mデビモン「な、何!？」

Mデビモンが気付かないうちに、Mデビモンの角が斬られていた。

Mデビモン「この、人間風情が!!マリシヤス・エッジ!」

銀時「おせーんだよ!爪切り代はツケとってやるよ」

Mデビモン「なっ!?!」

Mデビモンの爪が切られてしまっていた。

光司郎「凄い…!そうだ、ここはオメガモン達に任せて、ヒカリさん達を助けましょう。」

タケル「そうですね。だけど、僕はここに残って援護します。」

丈「なら、僕も残るよ。」

光司郎「分かりました。だけど、無茶はしないで下さい。」

タケル「はい、ヒカリちゃん達をお願いします。」

丈「よし、ゴマモン、いくよ！」

タケル「パタモン、頼んだよ！」

ゴマモン「ゴマモン、ワープ進化！ズドモン！」

パタモン「パタモン、ワープ進化！ホーリーエンジェモン！」

Hエンジェモン「私は、マリシヤスデビモンの方に行く。」

ズドモン「なら、俺は、テンペストエテモンの方に。」

????「そうはいかん。今、邪魔をされては困るのでな消えてもらおうか。」

ズドモン「誰だ！？どこにいる！」

????「フハハ、ハハ」

Hエンジェモン「そこか！！エクスカリバー！」

エクスカリバーを放った先から何かが飛び出した。

????「中々やるじゃないか。これは褒美だ。ディバイト・ゼロ・エクリプス！」

Hエンジェモン「エクスカリバー！」

ズドモン「ハンマースパーク！」

二つの技はそのまま相手の技に飲み込まれてしまった。

HエンジEMON「みんな、逃げるんだ！」

タケル「駄目だ！間に合わない！」

全員「うわぁー！！！」

（インペリアルドラモン達の側）

Tエテモン「ダークネススピリッツ・ヴェネツィア！（ダークネススピリッツの超連射版）」

IPドラモン「ぐわぁー！この野郎、メガデス！」

Tエテモン「ふん、ラブセレナーデ・ヴェニス！（ラブセレナーデを前に集中して、放出する技）」

Tエテモンの技とIPドラモンの技が激突した。…がTエテモンの技が勝利IPドラモンに直撃した。

神楽「この、猿公がいい加減、しつこいネ！」

Tエテモン「しつこいのはあなたの方でしょうが、このガキンチョ！」

一乗寺「インペリアルドラモン、ファイターモードになってギガデスを撃つんだ！」

神楽さん、インペリアルドラモンを援護してください！」

神楽「しょうがないネ。」

IPドラモン「インペリアルドラモンモードチェンジ！ファイターモード！」

Tエテモン「撃たせるわけないでしょ！ダークネススピリッツ・ヴェネツィア！」

神楽「邪魔はさせないアル！」

持っている日傘でダークネススピリッツを防いでいる。

神楽「早くするネ！ もう、長く保たないアル！」

Tエテモン「これでどう！！？ラブセレナーデ・ヴェニス」

神楽「なっ！？」

神楽は耐えきれず、吹き飛ばされた。

IPドラモンFM「喰らえー！！ギガデス！」

超越体2体に奮闘する銀さん達、しかしさらに強大な敵が現れる。
一体何者なのか？

衝撃の結末と新たな冒険！！（前書き）

今話は、第1部完ということ、いつもより長くなりました。
次の第2部は、次次回始まります。

衝撃の結末と新たななる冒険！！

（ヒカリ達救出側）

光司郎「伊織君、急いでヒカリさん達を探しましょう！」

伊織「ええ、あつ！光司郎さんあれて！」

光司郎さん「牢だ！おそらく、あそこにいる可能性が大きいです。」

テントモン「こらまた、でかい牢でんな。」

伊織「何層にもなっているのか。アルマジモン、アーマー進化して壊しましょう！」

アルマジモン「分かっただぎゃ！」

伊織「デジメンタルアップ！」

アルマジモン「アルマジモンアーマー進化！鋼の英知ディグモン！」

ディグモン「ゴールドラッシュ！」

三つの層が崩れた。

光司郎「テントモン、僕らも！」

テントモン「よっしゃ、やったるで！テントモン進化！カブテリモン！」

カブテリモン「メガブラスター！」

さらに、牢の層が崩れた。

伊織「行きましょう！」

く牢の中心く

ヒカリ「京さん、なにか聞こえない？」

京「あつ！本当だ！もしかして、大輔達！？」

空「光司郎君、伊織君！助けに来てくれたの！」

光司郎「急いで、脱出しますよ！それとこれを。」

光司郎の手には、ヒカリ達のデジヴァイスがのっていた。

伊織「その箱に入ってたんです。」

光司郎「そちらの人は？」

新八「あつ僕は…。」

ゴゴゴオーードカーン！！

新八「うわわ。なんだ！？」

光司郎「急いで脱出しますよー！」

京「は、はい！ホークモン！」

ホークモン「はい、任せて下さい！」

ヒカリ「テイルモン、お願い！」

テイルモン「わかったわ！」

ピヨモン「空、私達も！」

空「ええ、頼んだわよ！」

京・ヒカリ「デジメンタルアープ！」

ホークモン「ホークモン、アーマー進化！羽ばたく愛情！ホルスモン！」

テイルモン「テイルモン、アーマー進化！微笑みの光！ネフェルティモン！」

ピヨモン「ピヨモン、進化！バードラモン！」

新八「す、姿がかわった！！？」

ヒカリ「新八さん、乗ってください！」

新八「う、うん。」

最後尾のネフェルティモンが出てきた後、洞窟はくずれさった。

しかし、ヒカリ達が見たのは、あまりにも酷い土地のあれようだった。

ヒカリ「お、お兄ちゃん!!?」

ヒカリは、下の方にボロボロになった太一を見つけた。

空「大輔達もいたわ!けど、みんなひどいけがだわ!!」

空達は、ひとまず下におりた。

ヒカリ「お兄ちゃん、お兄ちゃん!」

太一「ヒ、ヒカリか?」

ヒカリ「うん、そうだよ。一体なにがあったの!?」

太一「あの時、何とかマリシヤスデビモンとテンペストエテモンを追い詰めたんだが、謎のデジモンが……。」

????「ふん、まだ残ってたか。しかも、増えているし。ん?お前等は牢に入れていた奴らか。」

光司郎「お前は、何なんだ!?」

????「ふん、お前等に言う必要はない。ここで消えるお前達にはな……!」

光司郎「カブテリモン!完全体に進化です!」

テイルモン「私も完全体に！」

バードラモン「空、お願い！」

パルモン「ミミ、私達もいこう！」

カブテリモン「カブテリモン、超進化！アトラーカブテリモン！」

テイルモン「テイルモン！超進化！エンジェウーモン！」

パルモン「パルモン！ワープ進化！リリモン！」

バードラモン「バードラモン！超進化！ガルダモン！」

???「たかが、完全体で勝てると思ったか？」

空「だけど、これだけの完全体ならどう？」

Aカブテリモン「ホーンバスター！」

エンジェウーモン「ホーリアロー！」

リリモン「フラウカノン！」

ガルダモン「シャドーウイング！」

4体の完全体の技は直撃した…と思われたが。

???「フハハ、やはり無駄だったな。」

太一「俺も分からん。取りあえずみんなをおこすんだ。」

二人は全員、起こした。

銀時「あつ新八、お前なんで!？」

新八「銀さんこそ、なんで…?」

その時、上からまさに太陽の如き光が降り注いだ。

タケル「な、何だ!？」

ヴィッセル・ゼウスモン「我が名はヴィッセル・ゼウスモンデジタルワールドを司る者だ。」

光司郎「ヴィッセル・ゼウスモン?パソコンにもものっていない!？」

Vゼウスモン「我は、余り地上にでないからな。しかし、これまでもお前達を手助けしてきたのだぞ。」

伊織「そうなんですか。今までの不思議な事はあなたがたすけてくれたんですか。でも、なんで僕達をここに?」

Vゼウスモン「うむ、お主達をここに転送しなかったら、闇にのみこまれていたところじゃったんだ。」

大輔「ありがとうな助けてくれて。なあ、教えてくれあいつに勝つ方法を!」

Vゼウスモン「まあ、慌てるな。実は、そのことなんじゃが、お前

達には異世界、過去、未来にいつてもらいたいんじゃない！」

空「それって、タイムスリップ？」

Vゼウスモン「まあ、そんなもんじゃ。実はな、それぞれの世界に何者かが侵入したんじゃない。いまは、お前達に頼るしかないんじゃない。頼む！世界を救ってくれ。」

太一「皆、どうする？」

ヤマト「そんなの決まってるだろ。」

太一「だよな。皆いいか？」

全員「もちろん！！デジタルワールドを救おう！！！」

Vゼウスモン「おお、皆の者、デジタルワールドをたのむ！今からそれぞれのデジタルワールドに送る。どのデジタルワールドに誰がいくかは、そのデジタルワールドが決めるため、我にも分からないが、無事に帰ってきてくれ。」

大輔「ああ、わかった！みんな、必ずもう一度、あの俺達のデジタルワールドに帰ってくるぞ！！！」

全員「おう！！！」

そして、それぞれのデジタルワールドに散っていった。

〈第一部・完〉

冒険は新たな世界へ進化する！！

1万PV突破直前&第1部完結記念特別版(前書き)

今回は、スペシャル版として、あとがきコーナーをスーパーワイド版にしてお送りします！

さらに、今後を左右する情報も！！？

1万PV突破直前&第1部完結記念特別版

作者「さて、今回は1万PV突破直前&第1部完結版ということで、あとがきコーナーをスペシャルワイドでお送りします！」

銀さん「今回のゲストは、俺、太一、アグモン、ヤマト、ガブモン、大輔、ブイモンのデジモンシリーズのそれぞれの主人公を呼んでいくぞー！」

タカト・ギルモン・拓也・タイキ・シャウトモン「俺達もいる(ぜ)(よ)！」

太一「ちょっと、まった！なんで、お前達が！？」

ヤマト「たしかに、お前達は出てきてないだろ？」

シャウトモン「デジモンキングになる俺が出なくてどうすんだよ！」

タイキ「まあ、とりあえず物語が進めば分かるから先に進もうぜ。」

作者「今回は特別版ということで、質問にどしどし答えていきます。」

銀さん「じゃあ、俺からの質問だ。前話で登場したVゼウスモンが言ってた、過去、未来、異世界のデジタルワールドってなんだ？」

作者「うーん。ストーリーに関わるから詳しい事は言えないけど、ここにいる主人公達がヒントかな。」

大輔「あゝ！俺、分かった！」

ブイモン「えっどういう事？大輔。」

大輔「つまり……！」

アグニモン「バーニングサラマンダー！」

大輔「あっちー！！！」

ブイモン「なにすんだよ！」

アグニモン「すまない、手が滑った。だが…、これ以上言つとつかり…。」

大輔「す、すいませーん！もういいませーん！」

銀さん「さてと、次いくか。」

タカト「じゃ、僕からいいですか？」

作者「どうぞ？ストーリーに関わる事以外なら。」

タカト「えっと、噂で聞いたんですがこの小説の本当の主人公がまだでてないってほんとうですか？」

作者「本当です！」

銀さん「うそだろ！？」

作者「マジとかいてまじです。」

アグモン「でも、もう第1部完結しちゃってんだよ!？」

作者「まあ、ムーミンみたいな感じということだ。」

ギルモン「それ知らない人、意味わかんないよ?」

銀さん「っていうか、俺じゃなかったの主人公!?!？」

作者「はい、残念ながら。」

シャウトモン「もしかして、俺じゃないのか主人公!」

銀さん「なら、テメーを倒して俺になる!」

シャウトモン「いい度胸だ!タイキ!クロスフォーだ!」

タイキ「だけど、今ドルルモン達いないぜ?」

シャウトモン「あっ!忘れてた!」

作者「まあ、あいつらはほつといて、第2部をお楽しみ下さい。これからも、万事屋と選ばれし子どもたちを見て下さい!

大輔達と1999年の夏（前書き）

いよいよ、第2部が始まりました！是非、楽しんで見て下さい。

あと、新作を作ったので、是非見て下さい。タイトルはデジモンE
x c e l ・ 2 0 1 0 です。あと、できれば感想もください！ 最近、
こなくてさびしいです（泣）。

大輔達と1999年の夏

「????」

大輔「つ、着いたのか？えっ!？」

一乗寺「これは、僕らのデジタルワールド!？」

Vゼウスモン「確かに、デジタルワールドだが、そこは1999年の夏のデジタルワールドだ。」

大輔「ヴィッセル・ゼウスモン!？っていつか1999年の夏って確か…。」

一乗寺「太一さん達が、初めてデジタルワールドを旅した時だ。」

Vゼウスモン「そうだ。この時代では、本宮大輔、一乗寺賢お前達にまかせるぞ。」

大輔「任せとけ!」

Vゼウスモン「忘れる所だったが、お前達に新たなる力を授ける。D-3をだすのだ。」

D-3がVゼウスモンの光を吸収して、腕輪の様な形になった。

大輔「うわっ!カッチョイイ!」

Vゼウスモン「それは、デジブレイブ!お前達が危機に瀕した時に、

奇跡がおきるだろう。」

一乗寺「デジブレイブ…。」

Vゼウスモン「後は任せたぞ。」

すると、Vゼウスモンは、消えていった。

ドカッーーン!!!

大輔「な、何だ!?!」

ブイモン「あつちで、誰か闘ってた!」

ワームモン「賢ちゃん、行ってみようよ!」

一乗寺「ああ、行くぞ!」

くムゲンマウンテン

Mデビモン「マリシヤス・デスクロウ!」

太一「うわぁー!」

丈「う、うそだろ!?!なんでいまさっき、エンジェモンが差し違えてデビモンを倒したのに、生き返ってしかも進化したんだ!?!」

Mデビモン「フハハ、この時代のお前達など、赤子の手をひねるよ
うなものだ。マリシヤス・ヘルブレス!」

大輔「ブイモンいくぞー!!」

ブイモン「おう、まかせろ!」

一乗寺「ワームモン!」

ワームモン「うん、進化だね!」

ブイモン「ブイモン、進化! エクスブイモン!」

エクスブイモン「エクスレイザー!」

Mデビモン「な、何!!!? そんな、馬鹿な!?!」

ワームモン「ワームモン、進化! スティングモン!」

スティングモン「スパイキングフィニッシュ!」

Mデビモン「ぐおおー!!?なんだこのパワーは!?!」

空「すごい、ピヨモン達が力を合わせても勝ってなかったデビモンと同等以上に闘ってる!」

エクスブイモン「すごい、力が漲ってくる!!」

スティングモン「ああ、今なら究極体も超えられる!」

大輔「うわ!? デジブレイブが光った! これは…。エクスブイモン受け取れ!」

一乗寺「ステイングモン限界を超えるんだ！」

デジブレイブが発した光が、エクスブイモン・ステイングモンが新たな進化に導いた。

エクスブイモン「エクスブイモン、ワープ進化！バージスドラモン！」

ステイングモン「ステイングモン、ワープ進化！ヴォイジャーステイングモン！」

一乗寺「あらたな、進化！？まさか、究極体！？」

Vステイングモン「いや、これは、超越体だ。感じる、とても強い光の力を。」

大輔「バージスドラモン、ヴォイジャーステイングモン！これは、またかつこよくなったな。」

Mデビモン「超越体だと！？そんな事はある得ん！！マリシヤス・ヘルブレス！！」

Bドラモン「この間のかり、きつちりかえしてやるぜ。ガイア・ヴァンフォーレ！」

Mデビモンの放った技は軽々とBドラモンの技に押し負け、そのまま、Mデビモンに直撃した。

Mデビモン「ぐはぁー！？」

Bドラモン「さあ、覚悟しろ！」

大輔達と1999年の夏（後書き）

あとがきコーナーV2！

作者「さあ、始まった第2部を記念してあとがきコーナーもパワーアップしてお送りします！」

銀さん「今回はかなりオリジナルのやつが出てきたな。」

作者「確かにね！だから、何回かに分けてまとめてみようかなと思います。」

銀さん「じゃあ、まずは、デジブレイブについて教えてくれ。」

作者「はい、デジブレイブは、Vゼウスモンの光を受けたD-3が進化した機器です。通常進化はもちろん、超越体への進化もできます。」

銀さん「アーマー進化はできるのか？」

作者「はい、できます。さらに……。」

Bドラモン「ガイア・ヴァンフォーレ！」

作者「ギャー……！！！」

銀さん「どこからか、Bドラモンの技が……？あつぶんね。」
作者「（死）」

銀さん「作者が死んでしまったので、また次回に紹介するぜ。」

究極体を超える力！バージスドラモンとヴォイジャーステイングモン！（前書き

ついに、今日ポケットモンスターホワイトをゲットしました！これから、更新が遅れるのをご了承くださいませようお願いします。

究極体を超える力！バージスドラモンとヴォイジャーステインゲモン！

大輔と一乗寺は、Vゼウスモンにより、1999年の夏のデジタルワールドに飛ばされた。

そこでは、昔の太一達がMデビモンに倒されようとしていた。

ブイモンとワームモンは、Vゼウス蒙ンの力で生まれ変わったデジヴァイス「デジブレイブ」の力で超越体のバージスドラモンとヴォイジャーステインゲモンにワープ進化した。

Mデビモン「あり得ん！我々以外が超越体になるなど！！？」

大輔「さあバージスドラモン、お前の力を見せつけてやれ！」

一乗寺「今、ここでマリシヤスデビモンを倒すんだ、ヴォイジャーステインゲモン！」

Bドラモン「おう、まかせとけ！」

Vステインゲモン「ああ、これ以上こいつを野放しにはできない！」

太一「アグモン、俺達もたたかうぞ。」

アグモン「うん、分かった、太一。」

ヤマト「お前達にはかりさせるわけにはいかないぜ。ガブモン、行くぞ！」

ガブモン「そうこなくちゃ！みんな、行こう！」

全員「おう！！！」

アグモン「アグモン、進化！グレイモン！」

ガブモン「ガブモン、進化！ガルルモン！」

テントモン「テントモン、進化！カブテリモン！」

ピヨモン「ピヨモン、進化！バードラモン！」

パルモン「パルモン、進化！トゲモン！」

ゴマモン「ゴマモン、進化！イツカクモン！」

大輔「太一さん、それにみんな！よし、バードラモン！これで、決めるぞ！」

Bドラモン「OK！みんな、俺とヴォイジャーステイングモンにパワーを！」

グレイモン「メガフレーム！」

ガルルモン「フォックスファイヤー！」

カブテリモン「メガブラスター！」

バードラモン「メテオウイング！」

トゲモン「チクチクバンバン！」

イツカクモン「ハーブンバルカン！」

グレイモン達のわざを吸収したバースドラモンとヴォイジャーステイングモンは、必殺技を繰り出した。

Bドラモン「エクストリーム・バース！」

Vステイングモン「ヴォイジャー・パニッシュ！」

Mデビモン「グオオー！己、私はまた必ずお前達の前に現れる、そして今度こそお前達をーーーー！！！」

Mデビモンはそういつて消えていった。

一乗寺「やったんだな。僕達、超越体に勝ったんだ。」

大輔「ああ、倒したんだ。…みんなで。」

BドラモンとVステイングモンはチコモンとリーフモンに退化した。

チコモン「力を使いすぎて、幼年期になっちゃった。」

一乗寺「リーフモン、体が!?!」

リーフモン「え?うわっからだが消えてる。」

大輔「あっ俺もだ!?!」

Vゼウスモン「安心しろ。Mデビモンを倒したから、世界を移動するだけだ。」

一乗寺「Vゼウスモン！世界を移動するって…。」

大輔「じゃあ、もう移動すんのか！？まあ仕方ないな。太一さん、頑張ってください。」

そうして、大輔達はまた別の世界に移動した。

空「あの子達、きえちゃった。」

太一「…にしても、なんであいつ俺の名前知ってたんだ？」

タケル達と伝説の十闘士（前書き）

ようやく更新できました。これから、どんどん投稿していきます。

タケル達と伝説の十闘士

大輔達は、1999年の夏の時代に遡り、子供の時の太一達と協力し合って強敵Mデビモンを倒した。

そして、大輔達はその時代から去った。

「フロンティアの世界」

スサノオモン「天羽々斬!!!」

ルーチェモン・ラルバ「おのれ!!! 忌々しい十闘士達め!!!」

ルーチェモンが消える瞬間、ルーチェモン以外の時間がとまった。そして、謎の音がきこえてきた。

「???」フハハ、伝説の十闘士達に復讐したいか?

ルーチェモンR「誰だ!?!」

「???」我は、復讐する者。もう一度聞く、奴らに復讐したいか?

ルーチェモンR「ああ、奴らに復讐したい!」

「???」「:ならば、受け取れ。」

すると、ルーチェモンの前に真っ黒な球体が現れた。そして、吸い込まれていくようにルーチェモンの中に入っていった。

ルーチェモンR「ルーチェモン、フォームチェンジ!ルーチェモン・

インフェルノモード！」

すると、再び時間は進み出した。

スサノオモン（純平）「そ、そんな！いまさっき、倒したはずなのに！？」

（泉）「どうして！？また、浄化しきれなかったの！？」

（輝二）「そんなはずはない！しかし、なぜ…！？」

（拓也）「とりあえず、もう一度倒すんだ！行くぞ、みんな！」

全員「おう！！」

スサノオモン「八雷神！」

ルーチェモンIM「…無駄だ。エクステント・パーガトリアルフレ
イム！」

互いの技をぶつけるが、圧倒的にスサノオモンの方が圧されている。

スサノオモン「くそっ！！さっきと段違いのパワーだ…！！このま
まじゃ、やられる…！！」

ルーチェモンIM「ククク、塵になるがいい、忌々しい十闘士達め
！！」

シルフィーモン「トップガン！！」

シャッコウモン「アラミタマ！！」

ルーチェモンIM「なっ!?くはあー!」

タケル「なんとか、間に合ったみたいだね。」

ヒカリ「そうみたいね。あなた、大丈夫!？」

スサノオモン「ああ、なんとかな。だけど、お前達はだれだ?」

伊織「僕達は…」

京「ちょっと、いまそんなこと言ってる場合じゃないでしょ!？」

シルフィーモン「…確かに、そんな暇はないようですね。」

シャッコウモン「今は、取りあえずあいつを倒すだぎゃ。」

スサノオモン「ああ、分かった!」

ルーチェモンIM「クハハ、ザコが増えたところでどうすることも
できん!食らえ!ディバインエクストリーム!」

タケル「みんなの技をあわせるんだ!」

シルフィーモン「トップガン!」

シャッコウモン「アラミタマ!」

スサノオモン「天羽々斬!」

再びぶつかり合う必殺技だが…、まだ圧倒的パワーの差がまだあった。

タケル「また、勝てないのか…!？」

Vゼウスモン「今こそ、デジブレイブの力を使うのだ！」

伊織「Vゼウスモン!? デジブレイブの力…!？」

京「一体どうすればいいの!？」

Vゼウスモン「デジモン達とお前達の心を合わせるのだ。」

シルフィーモン「…私達の心とヒカリ達の心を合わせる…。」

ヒカリ「私達の心は1つ!」

タケル「デジタルワールドを救い出す!」

伊織「だから、お前なんかには、絶対負けない!」

京「そうよ、私達は絶対に私達の世界に戻るんだからー!」

すると、デジブレイブが輝きだした。

シャッコウモン「これは…!?!? なんだか、力が湧いてきただぎゃ!」

シルフィーモン「いまなら、絶対に負けない!」

シャッコウモン・シルフィーマン「シャッコウモン！シルフィーマン！ハイパージョグレス進化！アルティマモン！」

ヒカリ「シルフィーマンとシャッコウモンがさらに、ジョグレス進化した。」

タケル「ハイパージョグレス進化……！」

アルティマモン「お前には、絶対にまけない！」

タケル達と伝説の十闘士（後書き）

あとがきコーナーV2

名前 バージスドラモン

種族 データ種

世代 超越体

技 ガイアヴァンフォーレ エクストリーム・バージス

説明 エクスブイモンがデジブレイブの力でワープ進化した姿。究極体を遥かに凌ぐパワーをもつ。

愛刀 バージスブレイカーにあらゆるパワーを込めることであらゆる斬撃が可能。

作者「まあ、こんな感じかな？」

銀さん「次回はまた特別版だ。楽しみにみてくれ。」

祝一万PV突破と登場人物全員集合！！

作者「今回は一万PV突破記念特別版つという事で、なんと全員でスペシャルストーリーを考えてみよう！」

銀さん「スペシャルストーリー？なんだそりゃ？そんなこと考えている暇があったらさっさと続きかけ！」

作者「いい案を出した人は、番外編の主役にするよ？」

銀さん「他の作家とのクロスオーバーなんてどうだ!？」

作者「うーん、それは、他の作家さんに協力しないと。」

太一「なら、お前が以前書いた小説とクロスはどうだ。」

作者「でも、あれは人気無かったしな。」

大輔「なら、やっぱりスピノフなんてどうだ？」

作者「そうか!！よし、あいつのスピノフを出してみよう!！」

ヒカリ「あいつって?」

京「誰のことよ?」

作者「近い内にだから、すぐにわかる。じゃあ、他にいい案はあるか?」

タケル「うん、特にないよ。」

伊織「僕も特にないです。」

拓也「なあ、仮面ライダーとクロスなんてどうだ？」

作者「仮面ライダーか？」

タカト「あ、僕もそれ良いと思う。」

作者「まあ、考えておこう。じゃあ、今回の話で出たスピノフと仮面ライダーとのクロスオーバーを考えてみる事で。他の作家さんとのクロスオーバーはしてもいいところかどうかで。」

銀さん「じゃあ、次回は本編だ。」

激突！光VS闇と新たなる超越体アルティマモン

タケル達はVゼウスモンの力で伝説の十闘士達の世界にきた。

そこでは、ルーチエモンがインフェルノモードに進化して、スサノオモンを苦しめていた。

スサノオモンが倒されかけた時、タケル達が現れ力を合わせるが、窮地には変わりなかった。

しかし、タケル達の諦めない心の声にデジブレイブが反応し、シャッコウモンとシルフィーモンがハイパージョグレス進化した。

アルティマモン「力が溢れてくる…！！」

ルーチエモンIM「おのれ、無駄なことを…！！エクステント・パ―ガトリアルフレイム！」

アルティマモン「ヘブンス・クレイドル！」

アルティマモンの背中にある6枚の純白の羽が輝きだし、小さい羽を無数にとばした。

ルーチエモンIM「ぐおおー！！まだまだ、我は、闇があればいくらでも回復出来る！」

京「そんな…！！それじゃ、勝てないじゃない！？」

タケル「諦めちゃだめだよ！諦めたら、そこで終わりなんだ！」

ヒカリ「光を捨てなければ、必ず勝てるのよ！」

伊織「負けないで、アルティマモン！」

アルティマモン「大丈夫だ。伊織達が諦めなければ、私達はさらに強くなれる！ヘブンス・ワールド！」

すると、アルティマモンの後ろから光の空間が現れた。

ルーチェモンIM「な、なんだこの空間は！？闇が吸収出来ないだ
と！！？グワアー！！！」

スサノオモン「ルーチェモンが苦しんでいる！？この空間の効果か
？しかも、力が漲ってくる！」

京「これが、アルティマモンの力、すごいわ……！」

タケル「今だ、アルティマモン、スサノオモン一気に奴を倒すんだ
！」

アルティマモン「ああ、スサノオモン、行くぞ！」

スサノオモン「今度こそ、ルーチェモンを倒す！」

ルーチェモンIM「馬鹿な……！！もう一度、闇の力を！」

スサノオモン「天羽々斬！！！」

アルティマモン「シャイニング・エクストリーム！」

ルーチェモンIM「おのねー！ー！」

アルティマモンが、作った空間はルーチェモンIMと共に消えていった。

スサノオモン「今度こそ、ルーチェモンを倒したんだ…。」

Vゼウスモン「選ばれし子供達よ、よくやってくれた。もう、その世界も大丈夫だろう。」

タケル「Vゼウスモン？じゃあ、戻れるんだね僕達の世界に。」

京「やったー！ビンゴビンゴー！！」

すると、タケル達の体が輝きだした。

スサノオモン「ま、まってくれお前達は一体…？」

伊織「僕達は…。」

伊織が言い切る前に、伊織達は戻っていた。

スサノオモン「一体、何者だったんだ？あいつら…。」

しかし、彼らとまた会うことは、この時誰も知り得なかった。

激突！光VS闇と新たなる超越体アルティマモン（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「さあ、今回も飛ばしていきますよー!!」

銀さん「はい、はい。それはそうと前回の特別版でいていた番外編の主役は誰にするんだ？」

作者「予定では、ある2人を主役とします。」

銀さん「おっもちろん俺だろうな？」

作者「残念ながら、まだ本編に出てない人です。読者が出して欲しいと多数応募があったキャラです。」

銀さん「きさま〜！許さん！」

作者「俺が、殺される前にさよなら〜。あつ、番外編は2部が終了した後になります。」

銀さん達とテイマーズ(前書き)

あとがきコーナーV2は当分の間しません。ご了承ください。

銀さん達とテイマーズ

「テイマーズの世界」

タカト「ギルモン、行くよ？」

ギルモン「待つてよ」タカト「。」

タカト「もう李くんや瑠姫達きちゃうだろ。」

「公園」

瑠姫「遅いわよ、タカト！」

李「何かあったの？」

タカト「ギルモンが、パンをいつまでもくってて…。」

テリアモン「相変わらずだね、ギルモン。」

ギルモン「テリアモン、久しぶり」。レナモンは？」

レナモン「私なら、ここだ。久しぶりだな、ギルモン。」

タカト「みんな、デ・リーパーを倒した後一度デジモン達は消えちやっただもんね…。」

レナモン「だが、瑠姫達が私達を忘れずにいてくれたから、ここに存在できている。」

テリアモン「ふふふ、ありがとうね、李。」

李「テリアモンのことを忘れる訳ないだろ。」

すると、突然ギルモンが警戒し始めた。

ギルモン「グルルル…!!」

タカト「どうしたの、ギルモン？」

テリアモン「何かいやな予感がする!」

瑠姫「レナモンも感じるの？」

レナモン「ああ…!!今まで、感じたことない気配だ…!!」

???「ハハハ、さすがだな。君たちを我が空間に招待しよう…」

すると、黒い空間がタカト達を飲み込んだ。

タカト達「ウワーツ。」

く???く

銀時「イタタ…。ここは、どこだ？」

太一「わからない。にしても、真っ暗だな。」

ヤマト「取りあえず、周りを調べてみようぜ。」

銀時「そうだな。」

ヤマト「なんか、聞こえないか？」

太一「えっなんにも聞こえ「ウワァッ」どわっ!!!？」

ヤマト「太一!!?」

タカト「うーん、ここどこ？あなた達は？」

銀時「お前達こそだれだ？」

タカト「僕達は…。」

太一「それよりも、早くどいてくれ…!!」

タカト「あ、ごめんなさい！」

ヤマト「しきりなおして、お前達は？」

タカト「僕はタカト、こっちはギルモン。」

李「僕は李。上に乗っているのは、テリアモン。」

瑠姫「私は瑠姫。後ろにいるのは、レナモン。」

太一「俺は太一だ。よろしく。」

ヤマト「ヤマトだ。」

銀時「銀時だ。さてとひとまず、紹介したところで。…なんでお前達は上から落ちて来たんだ？」

瑠姫「知らないわよ！私達が知りたいわよ！」

レナモン「瑠姫落ち着いて。」

タカト「そうだよ、太一さん達にあたってどうしようもないだろ。」

李「そうだよ、とりあえず、ここがどこか調べないと…。」

???「フハハ、ここは、我々の空間だ。」

ヤマト「誰だ!？」

???「我々を忘れたか？選ばれし子供達よ。」

太一「お前は、アポカリモン!!？」

銀時「あいつの事、知ってるのか？」

ヤマト「…あいつは、1999年の夏に最後に闘った相手だ。確かに倒したはずなのに…!!」

瑠姫「それ、どういうこと？まあいいわ、あいつを倒せば元の空間に戻るんでしょう？だったら、私達が倒すわ！行くわよ、レナモン！」

レナモン「ああ、分かった。頼む瑠姫！」

銀時「たしかに、あいつを倒せばいいんだろ？さっさとおわらせるぞ。」

アグモン「まって！あいつをなめてかつかたらだめだよ！」

ガブモン「そうだよ、あいつは多数の必殺技を使えるんだ。」

李「それでも、ここをでるには、あいつを倒しないと！テリアモン！」

テリアモン「うん、分かっている！究極体だね！」

タカト「ギルモン、行くよ！…勝ってここからでるんだ！」

ギルモン「うん、早くでてまたギルモンパンを食うっ！！！」

太一「しょうがねっ！アグモン！ワープ進化だ！」

アグモン「うん、今度こそあいつを倒そう！」

ヤマト「ガブモン！頼んだぜ！」

ガブモン「ヤマト、分かっているよ！早く、僕達も元の世界に戻るんだからね！」

アーク「matrix evolution！（マトリックスエボリューション！）」

デュークモン「デュークモン！」

セントガルゴモン「セントガルゴモン！」

サクヤモン「サクヤモン！」

アグモン「アグモンワープ進化！ウォーグレイモン！」

ガブモン「ガブモンワープ進化！メタルガルルモン！」

銀時「さあてと、さっさとかたづけけるか。」

アポカリモン「ああそうだなかたづけけるか、お前達をな……。そして、銀時は木刀を大刀に変化させた。」

銀時「へっお前なんか、五分で十分だ。」

アポカリモンとまさかの太一達が消滅!!? (前書き)

お待たせしました。

ようやく、更新できました。待っていてくれた人は本当にすいませんでした。

それでは、久しぶりにどうぞ！

アポカリモンとまさかの太一達が消滅!!??

太一達は、謎の空間で、タカト達に会った。

そこは、1999年の夏の最後に倒したはずのアポカリモンの空間だった。

タカト・太一達は元の空間に戻るために、究極体に進化した。

ウォーグレイモン「ガイアフォース！」

アポカリモン「…愚かな。ハイパー キヤノン！」

ウォーグレイモン「…くっ！やばい！」

ヤマト「メタルガルルモン、ウォーグレイモンを援護するんだ！」

メタルガルルモン「わかった！コキュートスブレス！」

アポカリモン「無駄だ…！ブリッツハンマー！、アルティメットストリーム！」

ウォーグレイモン「な、3つの技を同時に!？」

メタルガルルモン「押し負ける…!!！」

デュークモン「まだだ、あきらめるな！ロイヤルセイバー！」

セントガルゴモン「バーストショット！」

サクヤモン「飯綱！」

アポカリモンの技と太一達の技がぶつかり合い相殺された。

アポカリモン「なんだと!？」

銀時「…ただだぜ、デカブツ。喰らいな!ガイアブレイク!(命名)」

互いの技を相殺された時にできた煙に紛れ込んでいた銀時が会心の斬撃を喰らわせた。

アポカリモン「ぐっ!…おのれ。」

デュークモン「相手が多数の技を使うならば、こちらも同時に出せばいい。」

セントガルゴモン「デュークモンの言うとおりだよ。モーマンタイ、モーマンタイ。」

サクヤモン「…しかし、油断してはられないわ。…何か、とても悪い予感がするわ。」

太一「まさか…!ウオーグレイモン、一気にあいつをたおすんだ!」

ヤマト「そうだ、アポカリモンが超越体になる前に!」

サクヤモン「超越体!？」

セントガルゴモン「なに、それ?」

デュークモン「とにかく、あいつを早くたおしたほうがいいらしいな！」

アポカリモン「…ふん、この程度のダメージを与えたぐらいで調子に乗るな！ハイパー キヤノン、アルティメットストリーム、ブリッツハンマー、ブラッディーストリーム！」

太一「みんなの力を合わせるんだ！」

ヤマト「メタルガルルモン、いくぞ！」

すると、メタルガルルモンとウォーグレイモンの体が1つになり、純白の聖騎士のオメガモンになった。

オメガモン「いまこそ、お前を滅してやる！ソード・オブ・ルイン！」

デュークモン「ああ、必ずこいつは倒さなければいけない！ファイナルエリュシオン！」

セントガルゴモン「みんなの力を合わせれば、倒せないはずはない！ジャイアントミサイル！」

サクヤモン「そうよ、私達が力を合わせたから今までかてたのよ！だから、負けない！金剛界曼荼羅！」

銀時「へっ！俺は、こいつらみたいに立派な理由はねえ。ただ、テメーが気に入らないだけだ！ガイアブレイクX！」

アポカリモンの放った4つの必殺技とオメガモン、デュークモン、

セントガルゴモン、サクヤモン、銀時の放った必殺技がぶつかり合い、先ほどとは、比べられない爆発が起こった。

太一「…どうなったんだ？」

アポカリモン「…ク、クク…。」

ヤマト「そ、そんな…。」

デュークモン「まだ、倒れないのか!？」

アポカリモン「クハハ、計画がここまで順調に運ぶとは、フハハ。」

セントガルゴモン「計画!?!?なんのことだ!？」

アポカリモン「その選ばれし子供ならば、知っているだろう。この技を…!！」

太一「…まさか!?!？」

ヤマト「グランデスビッグバン…!！」

オメガモン「いや、あの時と段違いのパワーを感じる…!！」

サクヤモン「みんな私の周りにきて、四神包囲陣!！」

すると、サクヤモンの体から四匹のクダギツネがあらわれサクヤモンの周りに陣を描いた。

アポカリモン「ハイパーグランデスビッグバンEX!！」

サクヤモン「…だめ。結界が保たない！きゃー！！」

全員「うわぁー！！！！」

サクヤモンがはった結界は容易く破壊され、アポカリモンの空間は真っ白になった……。

????「…これで邪魔者も減った。…」

クロスハート出動！とタワーデジモン再来！！？（前書き）

今回は、今絶賛公開中のデジモンクロスウォーズの世界が登場します！

さあ、いよいよ第二部もあと残り僅か！さらにヒートアップしていきます！

あとがきコーナーV2は次回から再開します。

クロスハート出動！とタワーデジモン再来！！？

太一達は1999年の夏の最後の敵、アポカリモンにテイマーズであるタカト、李、瑠姫とそのパートナーデジモンと共に奮戦したが、アポカリモンの放ったハイパーグランデスビッグバンEXで空間は真っ白になった…。

くレイクゾーンく

シャウトモン「そろそろいこうぜくタイキく。」

タイキ「ああ、じゃあ行くか。」

ピピピ…。

突然、タイキのクロスローダーから声が聞こえてきた。

クロスローダー「…少年よ、このクロスローダーで危機に瀕している選ばれし子供達を救うのだ…。」

アカリ「何、この声！？それに選ばれし子供達って！？」

クロスローダー「…このメモリをクロスローダーに入れて時空移動というのだ…。」

ゼンジロウ「おい、タイキまさか…？本当にしないよな…？」

タイキ「救うってことは、そいつら困ってんだろ？だったらほっとけない！」

アカリ「やつぱり〜!!!?!」

バリスタモン「ヤツパリ、タイキハイイヤツ。」

スターモン「それでこそ、ジェネラルだぜ!!」

アカリ「しょうがないわね。」

ゼンジロウ「全くだ。だけど、君の言う通りだ。」

シャウトモン「それじゃー行こうぜ!!」

タイキ「ああ、ゲートメモリセット!時空移動!」

すると、目の前にゾーン移動の時に開く穴より小さな亀裂が開いた。

シャウトモン「よっしゃー、まってるよ選ばれし子供達!」

く???く???

ミミ「…どこどこ?」

空「分からないわ。確か…ヴィッセルゼウスモンに飛ばされたのよね?」

丈「。あつ!空くんあれを見るんだ!」

空「あ…あれは!?!?」

空達のいる場所から少し離れた所に黒い塔がいくつも建てられていた。

光司郎「…間違いない。あれは、ダークタワーです…!!」

神楽「何ネ？お前達あのダサイ建物のこと知っているネ？」

新八「たしか、ダークタワーっていま。」

空「あれは、大輔達の時に作られた建物なの。」

光司郎「あれが建てられている場所では、テントモン達は進化出来ないんです。」

テントモン「光司郎はんの言うとおりあれがある限りわてらは何も出来んのや。」

パルモン「アーマー進化は出来るのよ。」

新八「へ〜。うわっ!?!」

すると、沢山の白い髪の毛がダークタワーに入っていた。

ゴマモン「あれは!?!…まさか!?!」

髪の毛が入ったダークタワーは形が変わり、デジモンの姿になった。

ナイトモン「……。」

マンモン「ぱおおーん!!」

オオクワモン「きしゃーあ!!」

アルケニモン「ふふふ、相変わらずだね、選ばれし子供達。」

ミミ「ア、アルケニモン!？」

パルモン「そんな、うそ!？」

マミーモン「うそじゃねーよ。ヒッヒッヒ。」

丈「マミーモンまで!??」

光司郎「あいつらも生き返ったのか!？」

アルケニモン「久しぶりに会えて早々だけど、あんた達はここで終わりよ。行きな、タワーデジモン達!」

空「ピヨモン、行くわよ!」

ミミ「パルモン、お願い!」

光司郎「テントモン、頼みます!」

丈「ゴマモン、今度こそ倒すんだ!」

デジモン達「任せて!」

ピヨモン「ピヨモン、ワープ進化!ガルダモン!」

パルモン「パルモン、ワープ進化！リリモン！」

テントモン「テントモン、ワープ進化！アトラーカプテリモン！」

ゴマモン「ゴマモン、ワープ進化！ズドモン！」

ズドモン「いくぞ、みんな！」

神楽「私も忘れてもらったら困るネ。」

新八「僕もですよ！」

アトラーカプテリモン「なら、みんなで倒しまひよ。」

ガルダモン「ええ、みんな油断しないでね！」

リリモン「来るわ！」

アルケニモン、マミーモンと共に現れたタワーデジモン達に空達は勝てるのか。

次回、いよいよあいつが登場！！？

激突！タワーデジモンと神地葵登場！？（前書き）

すみません、あとがきコーナーV2を次回に変更します。
読者のみなさん、本当にすみません。

激突！タワーデジモンと神地葵登場！？

空達は、謎の世界に来た。

そこでは、おびただしい数のダークタワーが建っていた。

さらに、他の暗黒デジモン同様復活したアルケニモンとマミーモンによって、ダークタワーはオオクワモン、ナイトモン、マンモンに変化し空達に襲いかかった。

ガルダモン「シャドーウイング！」

ナイトモン「ベルセルクソード！」

ガルダモンのシャドーウイングはナイトモンのベルセルクソードで真つ二つになった。

ガルダモン「うそ！？」

アトラーカーブテリモン「なら、これならどうや！ホーンバスター！」

オオクワモン「シザーアームズ！」

両者のパワーは互角だが、スピードではオオクワモンの方が上回り少しずつ押されていた。

リリモン「アトラーカーブテリモン！今、たすけるわ、フラウカ…！」

マンモン「タスクストライク！」

リリモンがフラウカノンを放とうとした瞬間にマンモンのタスクストライクがリリモンの腕を掠めた。

ミミ「リリモン！大丈夫！？」

リリモン「ええ、大丈夫よ。だけど、タワーデジモンが以前よりパワーアップしてるわ…！！」

アルケニモン「ふふふ、さあやっておしまいタワーデジモン達！」

ズドモン「隙ありだ！ハンマースパーク！」

アルケニモンがタワーデジモン達に命令している時にズドモンがハンマースパークを放ったがアルケニモンは容易くかわして、本来の姿に変化した。

アルケニモン「ふはは、甘いわね、スパイダーソレッド！」

アルケニモンのスパイダーソレッドによってズドモンは動けなくなった。

ズドモン「しまった！」

丈「ズドモン！なんとか、脱出するんだ！」

ズドモン「ぐ、無理だ。これじゃ動けない…！」

神楽「しょうがないアルな。ほいつ…！」

神楽はアルケニモンめがけ、日傘を振り下ろした。

アルケニモン「なんだ、お前は!？」

神楽「万事屋アル。蜘蛛女、覚悟するネ。」

マミーモン「アルケニモン!この野郎、喰らえスネークバンテー
ジ！」

新八「神楽ちゃん、危ない!、なにこれ!?動けない…!」

神楽「新八！」

光司郎「新八さん!アトラーカブテリモン！」

アトラーカブテリモン「助けに行きたいのはやまやまなんやけど、
それどころじゃありません！」

ガルダモン「神楽さん、新八さん!ファイアハリケーン！」

ガルダモンは、アルケニモンとマミーモンめがけファイアハリケ
ーンを放ったが、ナイトモンに防がれた。

ナイトモン「ホーリースラッシュ！」

ガルダモン「きゃあー！」

空「ガルダモーン！」

ガルダモンはナイトモンのホーリースラッシュをつけピヨモンに退
化した。

オオクワモン「シザーアームズ　！！」

アトラーカーブテリモン「ぐぬぬ！も、もうもちまへん！ぐあー！」

光司郎「アトラーカーブテリモン！」

アルケニモン「ふん、小娘が生意気だよポイズンミスト！」

神楽「ぐはあ！？ど、毒アルか卑怯ネ！」

唇から流れている血を拭き取りながらも毒が回っているらしく、足がガクガクと震えていた。

丈・新八「神楽さん（ちゃん）！」

マミーモン「ヒヤハハ、テメーらもおねんねしな、スネークバンテージ！」

ズドモン・新八「うわあー！」

丈「ズドモン！新八さーん！」

ズドモンとアトラーカーブテリモンもダメージを喰らいすぎてゴマモン、テントモンに退化してしまった。

光司郎「もう、むりだ…。」

空「勝てない。」

リリモン「みんなの力を合わせてもダメなんて！」

「ミミ「いや〜死にたくな〜い！」

「丈「もう、おしまいだ〜！」

「アルケニモン「とどめだよ！」

「ナイトモン「ホーリースラッシュ！」

「マンモン「ツンドラブレス！」

「オオクワモン「シザーアームズ！」

「子供達「きゃあー！！！」

「????「コール！ウォーグレイモンX抗体、メタルガルルモンX抗体！」

「ウォーグレイモンX「よっしゃー！行くぜ、行くぜ！！！」

「メタルガルルモンX「∴クールにいこう∴。」

「????「選ばれし子供達を助けるんだ！」

「ウォーグレイモンX「まかせろ、ポセイドンフォース！」

「メタルガルルモンX「了解した。∴コキュートスブレスX！」

「突然現れた、2体のデジモンの技がタワーデジモンの技をタワーデジモンごと消し去ってしまった。」

光司郎「…すごい…！」

丈「あのタワーデジモン達を消し去った…！」

葵「俺は、神地^{かみち} 葵^{あおい}よろしくな、選ばれし子供達と万事屋のお二人
さん」

突然、強力な2体のデジモンをだしたこの少年は一体…！？

激突！ウォーグレイモンXとメタルガルモンX（前書き）

今、絶賛公開中のデジモンクロスウォーズに対抗してデジモン魂もさらにヒートアップしていくので、応援してください！

激突！ウォーグレイモンXとメタルガルルモンX

選ばれし子供達の前に再び現れたアルケニモンとマミーモンによってダークタワーをタワーデジモンに変化し、空達に襲いかかった。

ピヨモン達を完全体に進化させ、応戦するもパワーアップしたタワーデジモンに歯が立たなかった。

空達は窮地に陥るも、突然現れた神地 葵が出したウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体によってタワーデジモン達は消し去った。

葵「さあて、選ばれし子供達と万事屋さん、今困っている？」

丈「え？…うん？…。」

葵「分かった。じゃあ今、助けるよ。」

空「あなたは一体…？」

葵「あいつらを倒した後にはちゃんとすべて話してあげるよ。」

アルケニモン「私達を倒すだって？タワーデジモン達と同じにするんじゃないよ！アルケニモンワープ進化！」

マミーモン「そうだけ！みせてやるぜ、マミーモンワープ進化！」

アフヌーンモン「アフヌーンモン！」

エンシエントファラオモン「エンシエントファラオモン！」

アルケニモンはアフヌーンモンにマミーモンはエンシエントファラオモンに進化した。

光司郎「あれは、おそらく…超越体…！！！」

テントモン「間違いあらへん！」

ゴマモン「究極体じゃ無理だ！」

葵「大丈夫 ウォーグレイモンX抗体、メタルガルルモンX抗体行くぞ。」

ウォーグレイモンX「俺は、暴れたくてウズウズしてたんだ！」

メタルガルルモンX「…敵2体捕捉…攻撃開始…！！！」

アフヌーンモン「なめるんじゃないよ！エレクトリック・スパイダー！！！」

アルケニモンの時に出したスパイダーソレッドとは桁外れの量を不規則に出した。

ウォーグレイモンX「そんな、糸なんざ屁でもねーんだよ！ドラモンキラー！」

ウォーグレイモンXはドラモンキラーで容易く糸を切り裂いた。

「！！！！」「…すげー！」

リリモン「太一のウォーグレイモンを超えてる……!!」

ウォーグレイモンX「さあ、終わりにするぜ!!」

すると、ウォーグレイモンXは背中についたバーニアでアフヌーンモンの懐に入った。

アフヌーンモン「フハハ、馬鹿ね!消えな、ソリユート・インプレシス!」

アフヌーンモンのお腹に大きな穴が空き強力な熱線を繰り出した。

アフヌーンモン「フハハ、超高熱の熱線で溶けな!」

ウォーグレイモンX「へっ!俺の自慢のドラモンキラーを嘗めんなよ!」

ウォーグレイモンXはドラモンキラーで熱線を防いだ。

ウォーグレイモンX「おれが、本物の超高熱つてのを味わしてやるぜ!ガイアフォースZERO!」

アフヌーンモン「ぐわぁー!」

ウォーグレイモンXの零距离からのガイアフォースでアフヌーンモンは消し飛んだ。

新八「やりましたね!蜘蛛女を倒しましたよ!」

エンシエントファラオモン「アフヌーンモーン!…お前ら許さね

「ぞー！！！！ネクロミスト！」

メタルガルルモンX「データ解析開始。…データ解析完了。ネクロミスト、体中から強力な毒の霧を放出する技。対処法を検索…検索結果、グレイスクロスフリーザーを使用する。」

すると、エンシエントファラオモンのはなった、毒の霧は全て凍ってしまった。

エンシエントファラオモン「バカな…！？

空「毒の霧全てを凍らせるなんてとんでもない冷気よ…！！

メタルガルルモンX「戦闘終了までのシミュレーションは既に終了している。コキユートスブレスX！」

エンシエントファラオモン「か、体が…！？お、俺はまだ…！！」

メタルガルルモンX「ガルルトマホークNEX！」

エンシエントファラオモンの凍った体にガルルトマホークNEXが直撃し、粉々になった。

葵「ご苦労様　メタルガルルモンX、ウォーグレイモンX。じゃあ、もうもどすよ。」

ウォーグレイモンX「まだ、暴れたりね〜！！」

メタルガルルモンX「ワガママを言うな、このままだと世界を壊す危険性がある…。」

葵「そういうこと。じゃあいくよ、プロテクス！」

すると、葵は右手に持っていた銃を上に向けて撃った。

撃った先に五望星の陣が出来た。

ウォーグレイモンX「また呼べよ!？」

メタルガルルモンX「またの呼び出しをお待ちします。」

すると、ウォーグレイモンXとメタルガルルモンXは粒子になり、五望星に吸い込まれた。

そして、五望星もしばらくして消えた。

空「あ、あの〜?」

葵「ん、なに?」

空「いま、さっき世界が壊れるって言いましたよね?...どづいづいとですか?」

葵「ん〜。じゃあ、次回に説明します。」

全員「えーーーー!!!?」

と云ついでTo be continued...。

激突！ウォーグレイモンXとメタルガルルモンX（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「いや〜、久しぶりのあとがきコーナーですね〜。」

銀さん「そうだな。っていうかテメーはなんでどれもこれもギリギリになんだよ!？」

作者「な、なんのことでしょうか??アハハ…。」

銀さん「とぼけんな、あと2〜3話で第二部完結なのにいまさら主人公だしやがって。」

作者「あー！今から主人公のプロフィール大公開ー!！」

銀さん「話そらすんじゃねー!！」

太一「まあまあ、取りあえずどうぞ!！」

名前 神地かみじ 葵あおい

性別 男

装備 デジライザー、デジブレード（デジライザーの弾丸）

その他

頭脳明晰、運動神経抜群さらに品行方正とまさに非の打ちどころが

ない少年。

とある理由で近衛 騎士を追っている。

作者「まあ、今んとここんぐらいかな？」

太一「まだまだ、謎がありそうだな…。」

銀さん「とりあえず、これからも応援たのむぜ！あと感想もな！」

超絶進化！リーフィモンとボルジスモン（前書き）

今回は、新デジモン続けて登場してしまい、いつもよりページ大増量でお送りします！

超絶進化！リーフィモンとボルジスモン

空達は、アルケニモンとマミーモン率いるパワーアップしたタワーデジモンに追い詰められ危機に陥った。

その時、突然ウォーグレイモンX抗体、メタルガルルモンX抗体を連れた葵が現れ空達の窮地を救った。

葵「え〜と？じゃあ、まず俺の事から説明していい？」

空「はい、貴方は一体…？」

葵「う〜んと、そうだな〜救世主かな」

全員「…はい？…」

葵「いや、だから1年ほど前にねイグドラシルに頼まれてねあらゆる次元のデジタルワールドを救っていたんだけど、突然特定のデジタルワールドにかなり歪な力が発現してるんだ。ここもね。」

ミミ「えつと、イグドラシルって？」

メタルガルルモンX「それについては、私がお答えします。」

すると、突然葵の左手につけてある時計から声がしてきた。

丈「わ！？なに今の！？」

葵「これは、デジウォッチって言ってこのデジブレットに入っているデジモン達と話せるんだ。」

そついいながら、デジライザーに込めてあった弾を見せた。

新八「なんで、いちいちこれに入れるんですか？」

メタルガルルモンX「その理由についてはまずイグドラシルを知らないといけない。イグドラシルはあらゆる次元のデジタルワールドの神の事だ。」

光司郎「じゃあ、デジモン達を作ったのはそのイグドラシルですか？」

メタルガルルモンX「全てではない。突然変異や偶然出来たデジモンもいる。…それに、イグドラシルと対をなす存在が作ったデジモンもいる。」

「???」その通り！おれ達は、その方に作って頂けたのだ！」

神楽「だれアル!？」

ムシャテンモン「燕返し！」

葵「空ちゃん、頭を下げて！」

空「えっ!？」

空は葵の言う通りに頭を下げ、葵は素早くデジライザーにポケットに入ってた弾を込めて3発撃った。

カンッ！カンッ！カンッ！

ムシャテンモン「やりおるな…。貴様？」

葵「そりやどうも…メタルガルルモンX」

「メタルガルルモンX「今、我を出したらさすがに世界が耐えきれん。」

葵「やっぱりか…。」

リリモン「フラウカノン！」

ムシャテンモン「ふん！虫けらなんぞの技など効かぬわ！！二段燕返し！！」

リリモン「キヤーツ！」

葵「あいつも超越体だ…アレを使うか…。」

新八「アレ？」

すると、デジライザーにさっきまでのと違う弾を込めた。

葵「空ちゃん、ミミちゃん、光司郎くん、丈くんいまからヴィツセルゼウスモンから預かった力をピヨモン達に撃つ。上手くいったら、ピヨモン達は新たな力を手に入れられる…。」
ミミ「もし…うまく、いかなかったら？」

葵「…最悪の場合、ピヨモン達は消滅する…。」

空「そんな!!?」

丈「そんな事できないよ！」

光司郎「そうですよ！絶対に別の方法が…。」

テントモン「光司郎はん、わてらを信じて下さいな。」

ゴマモン「そうだよ、今まで丈達が信じてくれたからここまで来たんだ！」

ピヨモン「私は決して空の前から消えないわ！」

パルモン「私も、決してミミを悲しませることはしないわ。それに…。」

デジモン達「私達は必ず、私達の世界に笑って帰る…！！」

空「ピヨモン…！！分かったわ、絶対に死なないでね！」

ピヨモン「もちろん！」

葵「じゃあいくよ！互いのパートナーと心を合わせるんだ！新八くと神楽ちゃんも僕と一緒に時間稼ぎを！」

新八「分かりました！空さん達が最後の希望ですからね、必ず命に代えても時間を稼ぎます！」

神楽「了解アル！報酬はフランス料理フルコースで勘弁してやるネ！」

ムシャテンモン「虫けらが何をしたところで無駄だ！燕返し零式！」

すると、ムシャテンモンは強烈な突きを空達めがけはなった。

燕返し零式が当たる前に葵は、あるメモリを取り出し、デジウォッチに差し込んだ。

葵「デシメモリ、ウォーグレイモン！ブレイブシールド発動！」

ウォーグレイモン「ブレイブシールド！」

すると、空達の目の前に半透明なウォーグレイモンが現れ、燕返し零式を防いだ。

ムシャテンモン「何っ！？」

葵「今だ！心を一つに！」

すると、葵は弾丸をピヨモン達めがけはなった。

空「私の心とピヨモンの心そしてミミちゃん、パルモンの心が一つに感じる。」

ミミ「私の純真と空さんの愛情が重なった純愛の光が……！！」

ピヨモン・パルモン「私達の新たな進化が発現する！ピヨモン・パルモン、ワープ進化！ガルダモン、リリモン！」

ガルダモン・リリモン「ハイパージヨグレス進化！リーフモン」

ガルダモンとリリモンがハイパージヨグレス進化し、現れたデジモンは、背中に大きな花を模した羽があり、ガルダモンの足をもち、リリモンの左手にガルダモンの羽にリリモンのフラウカノンが合体

したような弓を持ち、頭にはリリモンの羽を小さくした羽飾りの洋風の兜をつけた美しいデジモンに進化した。

光司郎「心を一つにした感じ、なんて温かいんだ…！丈さん、ゴマモンそして、テントモンの気持ち分かる…！」

丈「僕の誠実な心の光と光司郎の知識の光が合わさって新たな光… 覚醒の光に！」

テントモン「光司郎はん達がわてらを信じてくれはるまでわてらは、決して負けへん！」

ゴマモン「そうだ！おれ達が諦めない限り、おれ達はさらに進化する！」

テントモン・ゴマモン「テントモン、ゴマモン、ワープ進化！アトラカプテリモン、ズドモン！」アトラカプテリモン・ズドモン「アトラカプテリモン、ズドモン、ハイパージョグレス進化！ボルジスモン！」

アトラカプテリモンとズドモンがハイパージョグレス進化した姿は、まさに、巨大そのもので足はキャタピラーになっていった、右手にはアトラカプテリモンの角を模したキャノン砲に、左手には伝説の武器ニョルニルを持ち、背中にはズドモンの甲羅に似ているが硬さは比較にならない物になっていて、頭には伝説の闘士の一体ブリザーモンの角にズドモンの角が立っていた。

光司郎「これが、ボルジスモン…！」

丈「で、でかい…！」

神楽「まったく、待たせすぎネ、お前たち。報酬にイタリア料理も追加するアル。支払いは死んだ新八にまかせるネ。」

新八「死んでねーよ!!!?しかも、僕が支払いですか!!!?»

まあ、この漫才はともかく…。

リーフモン「今度こそ、私達の手でたおす!」

ボルジスモン「信じる力は決して負けはしない!」

ムシャテンモン「信じる力だと?ふざけるな!たかが、同じ超越体になっただけで調子にのるな、虫けらがー!!!」

ハイパージョグレス進化で進化したリーフモンとボルジスモンの実力は…?

To be continued…

超絶進化！リーフィモンとボルジスモン（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「今回は、前書きでも書いた通りリーフモンとボルジスモンが登場させてしまい3ページでお送りしました！」

銀さん「しかし、こつも、どんどん出すと紹介が追いつかねーぞ？」

太一「安心しろ。もうすでに手は打っている。次回は新デジモンの紹介特別版だ。」

作者「ということで、今回はここまで。」

銀さん「まだまだ、頑張るから、応援してくれ。」

特別版新登場デジモン大紹介スペシャル！（前書き）

今回は、ウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体、そしてリーフモン、ボルジスモンの紹介特別版！

特別版新登場デジモン大紹介スペシャル！

名前 ウォーグレイモンX抗体

世代 究極体（しかし、イグドラシルの力で超越体とも互角に戦える。）

技 ガイアフォース、ガイアフォースZERO、ポセイドンフォース、ブレイブトルネード

性格 好戦的だが、仲間思いで心優しい。性格

イグドラシルの力で超越体と互角以上に戦えるが、そのかわり長く世界にいと世界が壊れる危険性がある。

名前 メタルガルルモンX抗体

世代 究極体（イグドラシルの力で超越体と互角以上に戦える）

技 ガルルトマホークNEX、グレイスクロスフリーザー、コキユートスプレスX

性格 いかなる状況でも冷静さを失わずに、速やかに行動する。一見、冷たいと思われがちだが、ウォーグレイモンX抗体と同じく仲間思いで心優しい性格。

葵の良き相談役。

名前 リーフモン

世代 超越体

技 リーフストリーム、ロイヤルテンプレーション、ヒーリングソング、ブリージングアロー

性格 ガルダモンとリリモンの性格を引き継いでいるが、ややガルダモンの性格の方が強い。

名前 ボルジスモン

世代 超越体

技 ライジングホーンブレイカー、ライジングホーンバスター、ミヨルニルハンマー、ミヨルニルアンブレカ、ライジングデストロイヤーZX、アルティメット・チャージ・ストライク

性格 ボルジスモンはリーフモンと違い完全な別人格のため、関西弁はしゃべらない。性格は花や魚などには優しいが、危害を加えるやつには一切手加減せず、あらゆる手段を使って懲らしめる。

純愛と覚醒の力！！VSリーフィモン、ボルジスモン（前書き）

もうすぐ第二部完結！ということでおさらばピートマップしていきます。

最初から最後までクライマックスだ！

純愛と覚醒の力！！VSリーフィモン、ボルジスモン

空達は、葵とメタルガルルモンXからあらゆるデジタルワールドの神イグドラシルについて聞いた。

その途中ムシャテンモンが現れ空達に襲いかかった。

葵はヴィッセルゼウスモンから預かった力をピヨモン達に撃ち込み、ガルダモンとリリモン、アトラーカプテリモンとズドモンがハイパージョグレス進化し、リーフモンとボルジスモンに進化した。

ムシャテンモン「ふざけるな！たかが、超越体に進化したところで無駄なこと！出でよ、ビシャテンモン！」

ビシャテンモン「ビシャテンモン、ただいま参上！」

ムシャテンモンの前にビシャテンモンが突然現れた。

リーフモン「空、ミニミ下がってて。」

空「…必ず勝ってね。」

リーフモン「うん、必ず勝って戻ってくるわ。」

ミニミ「無茶だけはしないでね…。」

リーフモン「大丈夫、任せて。」

ビシャテンモン「フン！たかが小蠅が、ムシャテンモンの右腕であ

る我に勝つ気か？」

リーフモン「ええ、その通りよ！私達は必ず勝つ！」

ビシャテンモン「身の程知らずが！！たかが一人で何ができる！！
？消え去れ、灰燼烈破！」

ビシャテンモンの2太刀から放たれた強烈な剣戟がリーフモンを襲った。

リーフモン「一人じゃない！私達には、多くの仲間がいる！リーフストリーム！」

すると、リーフモンは超高速回転して緑色の竜巻を起こした。リーフストリームはビシャテンモンの灰燼烈破を打ち消し、ビシャテンモンに直撃した。

ビシャテンモン「な！？我が剣戟が打ち負けただと！！？認めん、認めんぞー！！灰燼裂傷陣！」

先ほどの灰燼烈破とは比べ物にならないほどの剣戟の嵐が空達めがけ襲いかかった。

リーフモン「私達の純愛の光をこの矢に込める！百発百中！ブリージングアロー！！！」

リーフモンは左手に持った聖弓リスメイアの弓に純愛の光で出来た矢を放った。

ブリージングアローは灰燼裂傷陣とぶつかり合った。

空達「貫けー！ー！！」

ブリージングアローは輝きを増し灰燼裂傷陣を押し返しビシャテンモンを貫いた。

ビシャテンモン「も、申し訳ありませんムシャテンモン様ー！！」

ムシャテンモンは光になって消滅した。

ムシャテンモン「ビシャテンモン……！！貴様ら虫けら共がー！！消え去れ！毘沙門・天」

すると、何千本もの刀がボルジスモンに襲いかかった。

丈「ボ、ボルジスモン！」

ボルジスモン「大丈夫だ。丈、心配するな。ライジングゲストロイヤーズX！」

ボルジスモンは胸のハッチを展開して強烈な光を放出して何千本の刀を消し去った。

ムシャテンモン「私の毘沙門・天を……！！？」

光司郎「あれだけの刀をすべて消し去るなんて……！！膨大な量のエネルギーだ……！！」

ボルジスモン「当たり前だ、俺達の覚醒の光は丈と光司郎が俺を信じる程より輝きそして強くなる！受ける、俺達のカ！アルティメツ

ト・チャージ・ストライク!!」

ボルジスモンの覚醒の光がより輝き、ムシャテンモンに突進した。

ムシャテンモン「嘗めるな――! 毘沙門・濤!!」

光司郎「僕達は、どんな大きな壁にあつたてもデジモン達を仲間を信じてきた!」

丈「だから、僕達は大きな壁を砕いて今ここにいる! だから、お前にも決して!」

光司郎・丈・ボルジスモン「お前には、負けない! ウォー――!!」

ムシャテンモン「ウルボロスに栄光あれ――!!」

新八「: すごい! リーフモンとボルジスモン!!」

神楽「それよりも早く報酬のフランス料理のフルコースアル!」

葵「まあまあ、取りあえず敵に勝ったんだから。」

葵「(…ウルボロス…厄介な事になりそうだな…。)」

ムシャテンモンが最後に放ったウルボロスとは一体…?

To be continued…

純愛と覚醒の力！！V S リーフィモン、ボルジスモン（後書き）

あとがきコーナーV2」

作者「さあ、今回のあとがきコーナーV2は、主役の葵が登場！」

葵「どうも 主役なのに、第二部の終わりぐらいにでてきた葵です
」

作者「そ、そんなこと言わないでよ。本当なら、第一部にだすはずだったんだから。」

葵「でも、出さなかったじゃん」

作者「まあまあ、第三部は葵中心だから、それで勘弁してください。
」

葵「じゃあ、ガイアフォースZEROぐらいで許してあげる コー
ル！ウォーグレイモンX抗体！」

ウォーグレイモンX「ガイアフォースZERO！」

作者「ごめんなさーい！」

葵「じゃあ、また次回」

子供達の合流と真選組、デジタルワールドへ！（前書き）

なんとあの人達がデジモン魂に参戦！

銀魂ずき必見の価値あり！

子供達の合流と真選組、デジタルワールドへ！

ピヨモン達はヴィッセルゼウスモンの力で、リーフモンとボルジスモンにハイパージョグレス進化した。

その圧倒的パワーは超越体であるビシャテンモンとムシャテンモンを難なく倒した。

〜歌舞伎町〜

ガラガラ〜。

土方「おい、万事屋、依頼だ。」

沖田「土方さん、あいつらいないみたいですよ。」

土方「仕方ね、中で待つとくか。」

沖田「土方さん、あんたそれ不法侵入じゃないですか。あんたそれでも、真選組ですか？」

土方「そういつてテーマはなんでソファーでくつろいでんだ！！？」

沖田「まあ、いいじゃな…、あれ？あいつらパソコンだったのか？」

土方「ん？あいつらがパソコンなんて買ったのか？」

そういつて土方はデスクトップパソコンに近づいた。

土方「あん？あいつら、電源つけっぱなしじゃねーか。」

沖田「え？土方さん、コンセントつないでないですよ。それ？」

土方「そんな、馬鹿な…」

すると、パソコンの画面が輝きだし部屋を光で満たした。

土方「うわぁー！？」

沖田「なんだ！？」

光が消えた時には、誰もいなかった。

くデジタルワールドく

大輔「ん？ここは…？」

ブイモン「俺達のデジタルワールドだ！戻ってきたんだ！！」

一乗寺「他のみんなは…？」

ワームモン「賢ちゃん！あ、あれ！」

すると、大輔の前に光の空間が開き、タケル、伊織、ヒカリ、京とパタモン達が光から現れた。

大輔「ヒカリちゃん！」

ヒカリ「大輔くん、一乗寺くん！」

タケル「2人とも、無事だったんだね！」

ブイモン「俺達もな！」

一乗寺「京さん達も大丈夫だったみたいですね。」

京「うん、光司郎さん達は？」

ワームモン「あっ！？また、光の空間が！？」

さつき、タケル達が出てきた空間から光司郎達が現れた。

光司郎「皆さん！無事だったんですね！」

伊織「光司郎さん達も…、その人は？」

葵「神地葵、よろしくね。」

空「葵さんに私達助けってもらったの。」

葵「助けたなんて。僕は、何もしてないよ、君たちが諦めずにパートナーを信じたから勝てたんだから。」

それから、大輔達は今までにあつた事を説明しあつた。

葵「超越体が5体…か。敵の戦力が分からないから油断は禁物だね…。」

光司郎「でも、葵さんはデジライザーでウオーグレイモンX抗体やメタルガルルモンX抗体を呼べるんですね？」

葵「ああ、その事は説明しなかったね。みんなが知っている通り超越体には、究極体でも太刀打ちできない…普通ならね。だから、イグドラシルは自分の力をウォーグレイモン達に与えたんだ。デジタルワールドの神の力は一つの世界には、大きすぎてあまり長居すると世界が壊れてしまうんだ。だから、出せるデジモン達も3体が限界。」

伊織「3体というと、ウォーグレイモン×抗体とメタルガルルモン×抗体以外のデジモンもいるのですか？」

葵「まあね、例えば…！？闇の気配…！？」

ミミ「まさか、また超越体…！？」

すると、森の暗闇から5人の人影が現れた。

新八「子供…！？」

5人「スピリットエボリューション！アグニモン、チャックモン、ヴォルフモン、フェアリモン、ブリッツモン！」

一乗寺「子供がデジモンに…！？」

アグニモン「選ばれし子供達、倒す！！バーニングサラマンダー！」

大輔「ブイモン！」

ブイモン「ブイモン、進化！エクスブイモン！エクスレイザー！」

アグニモンのはなったバーニングサラマンダーとエクスレイザーが

ぶつかり合った。

なぜ、アグニモン達^が選ばれし子供達を攻撃するのか……？

T o b e c o n t i n u e d . . .

子供達の合流と真選組、デジタルワールドへ！（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「どうも、デジファンです。」

銀さん「ようやく、大輔達が合流したな。」

太一「俺達はどうなんだよ!？」

作者「大丈夫、大丈夫ちゃんと準備してあるから心配するな。」

銀さん「今回は、すこし他の事があるのであとがきコーナーV2はここまでだ。」

作者「じゃあ、また次回も見て下さい!」

操られた伝説の五闘士と最強の聖騎士登場！！（前書き）

なんと、今回は最強デジモン^デの一体であるあのデジモンが登場します！

勘がいい人はもうすでに、分かっているかも！

操られた伝説の五闘士と最強の聖騎士登場！！

大輔、一乗寺、タケル、伊織、ヒカリ、京、空、ミミ、光司郎、丈は無事もとのデジタルワールドに戻ってきた。

そこで、葵はウォーグレイモンX抗体達の事を話した。

すると、葵が闇の気配を感じると、伝説の五闘士が現れ、空達に襲いかかった。

アグニモン「バーニングサラマンダー！」

エクスブイモン「エクスレイザー！」

互いの技は、相殺された。

大輔「なにしゃがる！？」

ブリッツモン「…選ばれし子供、倒す！ツールハンマー！」

光司郎「テントモン！」

テントモン「テントモン、進化！カプテリモン！」

カプテリモン「メガブラスター！」

丈「話を聞いてくれよ！」

葵「無駄だ。彼らは、闇の意志に操られているんだ。」

神楽「なら、ボッコボッコにして叩き起こすネ！」

葵「だめだ！彼らを傷つけちゃだめだ！」

新八「そんな事いってもこのままじゃ…！」「スノーボンバー！」うわぁー！！！」

空「ピヨモン！」

ピヨモン「ピヨモン、進化！バードラモン！」

バードラモン「メテオウイング！」

チャックモン「ぐわぁー！」

バードラモン「あ、しまった！」

フェアリモン「トルナード・ザンバ！」

バードラモン「キヤーツ！？」

空「バードラモーン！」

ミミ「パルモン、お願い。」

パルモン「パルモン、進化！トゲモン！」

トゲモン「チクチクバンバーン！」

ヴォルフモン「リヒト・ツィガー！」

トゲモン「弾かれた!? キャーッ!?」

ミミ「トゲモン、大丈夫!?」

トゲモン「うん、あいつら強いわ…!!」

一乗寺「こうなったら、完全体でいこう。ワームモン!」

ワームモン「任せて賢ちゃん。ワームモン、進化! スティングモン!
!」

大輔「よし! ジョグレスだ!」

エクスブイモン・ステイングモン「エクスブイモン! スティングモン!
ジョグレス進化! パイルドラモン!」

アルマジモン「伊織、オイラもジョグレスぎゃ!」

伊織「はい、頼みます!」

パタモン「タケル!」

タケル「うん、いくよ!」

アルマジモン「アルマジモン、進化! アンキロモン!」

パタモン「パタモン、進化! エンジェモン!」

アンキロモン・エンジェモン「アンキロモン! エンジェモン! ジョ

グレス進化！シャッコウモン！」

京「ホークモン！」

ホークモン「はい！ホークモン、進化！アキラモン！」

アキラモン・テイルモン「アキラモン！テイルモン！ジョグレス進化！シルフィーモン！」

ゴマモン「丈、俺達も！」

丈「うん、分かってる！」

ゴマモン「ゴマモン、ワープ進化！ズドモン！」

カプテリモン「カプテリモン、超進化！アトラークプテリモン！」

バードラモン「バードラモン、超進化！ガルダモン！」

トゲモン「トゲモン、超進化！リリモン！」

大輔「これなら、捕まえられるぜ！」

葵「まだまだ！油断するな！」

一乗寺「え？」

ブリッツモン「ブリッツモン、スライドエボリューション！ボルグモン！」

チャックモン「チャックモン、スライドエボリューション！ブリザーモン！」

フェアリモン「フェアリモン、スライドエボリューション！シューッモン！」

光司郎「し…進化した！？」

葵「彼らは、スピリットと呼ばれるアイテムを使ってデジモンに進化できるんだ。

…そして、ヒューマンスピリットとビーストスピリットで人型にも獣型にもなれるんだ。」

丈「う、嘘だろ！？」

ボルグモン「アルティメットサンダー！」

新八「こ、こっちにくるー！？」

ズドモン「新八！ハンマースパーク！」

シャッコウモン「アラミタマ！」

アルティメットサンダーは、ハンマースパークとアラミタマによって相殺された。

新八「た、助かった。」

葵「新八さん、大丈夫！？」

新八「なんとか、大丈夫だよ。」

葵「よし、ボルグモンはズドモンとシャッコウモンそれに神楽さんに任せる！」

ズドモン「まかせろ！」

シャッコウモン「なんとか、とりおさえてみるだぎゃ！」

神楽「こんなやつ、朝飯前ネ。」

葵「シューツモンは、リリモンにシルフィーモンに頼む。」

リリモン「うん、分かった。やってみるわ！」

シルフィーモン「このデジモンを必ず正気に戻します！」

葵「ブリザーモンは、パイルドラモンにアトラカプテリモンそれに新八さんで抑えてください！」

大輔「葵、あいつら2体を相手にする気が!？」

葵「うん、多分ウォーグレイモンX抗体達じゃないとあの2体に勝てないからね。」

一乗寺「どうい事ですか？」

葵「…見てれば分かるよ。」

すると、アグニモンとヴォルフモンは進化を解いた。

光司郎「人に戻った？」

拓也・輝二「ダブルスピリットエボリューション！アルダモン！ベ
オウルフモン！」

葵「やっぱり、ダブルスピリットエボリューションしたか…!!！」

光司郎「ダブルスピリットエボリューション！？なんですかそれは
？」

葵「ダブルスピリットエボリューションはヒューマンスピリットと
ビーストスピリットの両方の特性を持った融合進化形態だ。」

丈「り、両方の…!？」

葵「さあ、出番だよ！コール！ウォーグレイモンX抗体、メタルガ
ルルモンX抗体！」

ウォーグレイモンX抗体「やっとか！待ちくたびれたぜ！」

メタルガルルモンX抗体「相手は、スピリット体しかも、ダブルス
ピリットエボリューションならば、あれしか方法はない。」

葵「うん、じゃあ久しぶりにいくよ！」

すると、ウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体が合体
し、最強の聖騎士オメガモンX抗体になった。

光司郎「太一さん達のオメガモンとは、形が違う…!?」
オメガモンX抗体「さあ、五闘士達よ今すぐに闇をはらってやる！」

ウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体が合体した、最強の聖騎士オメガモンは五闘士達を正気に戻せるのか!?

T o b e c o n t i n u e d . .

操られた伝説の五闘士と最強の聖騎士登場！！（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「今回は、まさかの五闘士達が敵にまわってしまった話ですが。実は、この話はデジモン魂をやることになった時に既に考えていたんですよ！」

銀さん「なんで、この話はしようと思ったんだ？」

作者「それは、デジモンシリーズのキャラクター同士が戦ったらどうなるかなって思って。」

太一「確かに、俺も気になるな？」

作者「読者の皆さんは誰が好きですか？僕は断然、デジモンアドベンチャーの太一です！」

太一「お、嬉しいこと言ってくれるじゃねーか？」

銀さん「まあ、とにかく今回はここまでだ。ダメダメな作者だけど応援してくれよ！」

炎・光・氷・雷・風超絶暗黒融合進化！？（前書き）

また、あとがきコーナーV2を休ませてもらいます。
本当に申し訳ありません。

炎・光・氷・雷・風超絶暗黒融合進化！？

大輔達は伝説の五闘士達の力に苦戦し完全体に進化して、取り押さえようとしますが、チャックモン、ブリッツモン、フェアリモンはブリザーモン、ボルグモン、シューツモンにスライドエボリューションし、拓也と輝二はダブルスピリットエボリューションでアルダモンとベオウルフに進化した。

葵は手分けして抑えるよう指示し、ウォーグレイモンX抗体、メタルガルルモンX抗体を呼び出した。

葵とメタルガルルモンX抗体はそのまま闘うと効率が悪いと考え、ウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体を融合進化させ、最強の聖騎士型デジモンオメガモンX抗体に進化した。

光司郎「太一さん達のオメガモンと形が違う…！？」

葵「オメガモンX抗体！最強のデジモンの一体にして、イグドラシルを守護するロイヤルナイツの一体だよ。」

空「なんて神々しいまでの光だわ…。」

アルダモン「…殲滅せよ。ブラフ・マトラ！」

オメガモンX抗体「無駄だ、オメガインフォースの前では、そんな技は通用しない！」

一乗寺「あ、あれだけの炎の玉をすべてかわしている！？」

葵「オメガモンX抗体のオメガインフォースは未来を先読みする力。つまり、数だけじゃオメガモンX抗体には通用しないよ。」

ベオウルフモン「ツヴァイハンダー！」

オメガモンX抗体「オールデリート！」

オメガモンXはツヴァイハンダーにグレイソードを向けるとツヴァイハンダーは消滅した。

アルダモン・ベオウルフモン「!!!？」

大輔「敵の技が消えた!？」

葵「オメガモンX抗体の持つ最大の武器。それが、オールデリート！オールデリートはグレイソードに触れたものを消し去る技だよ。」

ミミ「反則ギリギリの技ね!!!！」

「???」「…やはり、伝説の五闘士達でもあのオメガモンX抗体には勝てんか…ならば。」

葵「オメガモンX抗体、アルダモンとベオウルフモンを抑え込むんだ！」

オメガモンX抗体「了…何!?!？」

オメガモンX抗体がアルダモン、ベオウルフモンを抑え込もうとした途端、五闘士全員が黒い輝きを放った。

アトラーカブテリモン「な、何がおきたんや!？」

光司郎「葵さん、まさか彼らはまだ進化出来るんですか!？」

葵「まさか…!？」

黒い輝きを放った五闘士達は一つになり、禍々しい姿を現した。
タケル「あ、あのデジモンは!？」

大輔「タケル知ってんのか!？あのデジモンを!？」

伊織「僕達の訪れた世界で共闘したデジモンに似ている…!!」

葵「スサノオモン…!!？」

???「違う、あれはブラックスサノオモンだ。」

オメガモンX「この声は…!!？」

葵「ウロボロスの最高幹部の一体、殺戮のディアスモン!!」

ディアスモン「フハハ覚えていたか、神地葵!」

葵「忘れるわけないだろ…!!あいつは、近衛騎士はどこにいる!?!？」

ディアスモン「ふん、知らぬな。それよりも、あいつらを助けなくていいのか?まあ、お前でも勝てんだらうがな…。」

すると、ディアスモンの声は聞こえなくなった。

ブラックスサノオモン「うおー！ー！ー！！」

オメガモンX「グレイソード！！」

ガキン！！

オメガモンX「何！？止めただと！！？」

ブラックスサノオモンは軽々とグレイソードを片手で止め、オメガモンX抗体を投げ飛ばした。

オメガモンX「ぐはっ！！」

葵「オメガモンX抗体！！」

リリモン「ミミ！ハイパージョグレス進化よ！」

ミミ「うん、空さん！」

空「分かったわ！」

リリモン・ガルダモン「リリモン、ガルダモン、ハイパージョグレス進化！リーフモン！」

シャッコウモン「伊織、タケル俺達も！」

伊織「うん、タケルさん、京さん、ヒカリさん！」

タケル「頼んだぞ！シャッコウモン！」

京「シルフィーモン行くわよ！」

シルフィーモン「はい！準備完了よ！」

シャッコウモン・シルフィーモン「ハイパージョグレス進化！アル
ティマモン！」

丈「みんな、いくよ！」

光司郎・アトラーカーブテリモン・ズドモン「はい（よっしゃ）（OK）！」

アトラーカーブテリモン・ズドモン「ハイパージョグレス進化！ボル
ジスモン！」

ブイモン「大輔、超越体だ！」

大輔「ああ、頼むぜブイモン！」

ワームモン「賢ちゃん、いこう！」

一乗寺「ああ、彼らを救うんだ！」

ブイモン「ブイモン！ワープ進化！バースドラモン！」

葵「みんな、気を付けて！闇の力で以上なパワーを放出していか
なり手強いよ！」

ブラックスサノオモン「ウガアーーーーー！」

オメガモンX抗体と超越体五体の前に立ちはだかる暗黒に染まった
スサノオモン、ブラックスサノオモン！

葵達は、伝説の五闘士達をすくえるのか？

T o b e c o n t i n u e d . . .

五闘士達を救出せよ！と閉じ込められた葵達！！（前書き）

さあ、次回はいよいよ第2部完結！

っというわけであとがきコーナーV2で、番外編の情報公開！

五闘士達を救出せよ！と閉じ込められた葵達！！

葵達は、操られた五闘士達を救うためにデジモン達を完全体に、葵はウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体をオメガモンX抗体に融合進化させた。

オメガモンX抗体はその圧倒的パワーでアルダモンとベオウルフモンをあと一押しという所で、ディアスモンによって五闘士達は超絶暗黒融合進化させられ邪悪なスサノオモン、ブラックスサノオモンが立ちほだかった。

タケル「アルティマモン、ヘブンスワールドで暗黒のパワーを弱めるんだ！」

アルティマモン「目を覚ますんだ、スサノオモン！ヘブンスワールド！」

すると、アルティマモンの背中から光の空間が出現し始めた。

ブラックスサノオモン「ダークネスワールド！」

アルティマモンがしたみたいにブラックスサノオモンの背中から真っ暗な空間がした。

伊織「な、なにあれ！？何もない真っ暗な空間！？」

すると、ヘブンスワールドは、ダークネスワールドに呑み込まれ辺りは真っ暗になった。

アルティマモン「ヘブンスワールドが！？」

葵「オメガモン×抗体、ガルルキャノンだ！」

オメガモン×抗体「ガルルキャノン！」

しかし、ガルルキャノンは暗黒の空間に虚しく吸い込まれた。

ブラックスサノオモン「邪神雷招！」

オメガモン×「みんな、逃げろ！」

すると、上空に巨大な輪が現れ数多の黒い雷が葵達に落ちてきた。

リーフモン「みんな、私の所に集まって！」

すると、みんなはリーフモンの所に集まった。

リーフモン「ロイヤルガーデン！」

リーフモンを中心に大地から巨大な蔦が何本も現れ葵達を包み込んだ。

空「これでなんとか…!!?」

だが、蔦はどんどん切れていった。

リーフモン「も、もう保たないわ！」

大輔「なんとか、出来ねーのか!？」

葵「一つだけある…。」

一乗寺「なら、早くそれを…!!！」

葵「だけど、下手したらデジモン達が死ぬよ?」

丈「そ、そんな!?!」

光司郎「ボルジスモン達を見捨てるなんてできません!!！」

ボルジスモン「言ったはずだぜ。光司郎、丈俺達は消えないってな。

」

リーフモン「私達は、ミミ達が諦めない限り必ず勝つて。」

バージスドラモン「大輔、俺達の力は無限大だろ!」

大輔「バージスドラモン…!!ああ、そうだな、葵なんなんだその方法は?」

葵「おそらく、暗黒のパワーの中心はあの真ん中の玉から出ている。あの玉を壊して、ブラックスサノオモンの体の中の残った暗黒パワーをけす。

つまり…。」

ブラックスサノオモン「グオオー!」

葵「みんな、分かった!?!」

全員「OK!」

ブラックスサノオモン「敵を殲滅せよ…。邪臨水爆！！」

オメガモンX「オールデリート！」

ブラックスサノオモンが起こした爆発をオールデリートで消し去った。

葵「バージスドラモン、ヴォイジャーステイングモン動きを止めるんだ！」

バージスドラモン「任せろ！エクストリーム・バージス！」

ヴォイジャーステイングモン「ヴォイジャー・パニツシュ！」

ブラックスサノオモン「グワァー！天魔荒神撃！」

タケル「アルティマモン！」

アルティマモン「分かってる、みんなは傷つけさせない！シャイニングウオール！」

すると、アルティマモン達の目の前に巨大な光の壁ができ、天魔荒神撃を防いだ。

葵「今だ！リーフィモン、ボルジスモン純愛と覚醒の光の矢を！」

丈「ボルジスモン、僕達の覚醒の光をリーフィモンの矢に！」

ミミ「リーフィモン、お願い！スサノオモンを助けて！」

リーフィモン「いくわよ、ブラックスサノオモン！スーパーブリー
ジングアロー」

全員「貫けー！！！」

純愛と覚醒の光をのせた矢は、ブラックスサノオモンの真ん中の闇
の玉に当たり砕いた。

ブラックスサノオモン「ぐおおー！ー！……！」

ブラックスサノオモンを覆っていた闇のオーラは消え、そこには5
人の子供達が倒れていた。

ミミ「あっ子供達は！！？」

葵「大丈夫みんな気絶してるだけだよ。」

大輔「ふ〜、やっと一件落着か。」

新八「そうですね。」

ディアスモン「…それはどうかな？」

一乗寺「この声…さっきの！！？」

ディアスモン「覚えてくれて光栄だよ。しかし、もう君たちと会う
ことはないよ。」

葵「どういうことだ!?!？」

ディアスモン「君たちがブラックスサノオモンと戦っている間にこの世界の扉は閉じた。もう、君達は他の世界を越えられない。」

葵「そんな馬鹿な!？」

すると、葵は前めがけデジライザーを放った。しかし、何も起こらなかった。

葵「う、うそ!?!?ゲートが開かない!！」

ディアスモン「フハハ、それだけじゃないよ。そろそろ時間だね。」

ミミ「なんのこと!？」

ビシッ、バリバリ

伊織「な、何!？」

オメガモンX「まずい時間が!?!葵、俺を早く戻すんだ!」

丈「な、何が起こってるの!？」

葵「空間が、壊れ始めてるんだ。」

すると、葵はデジライザーを上空めがけ放った。

……しーん……

オメガモンX「馬鹿な、戻れもしないのか!?!？」

ディアスモン「さあ、空間と共に消えな。」

伝説の五闘士達を救った喜びは、さらなるピンチの前に消えた。葵達はどうなるのか？

T o b e c o n t i n u e d . . .

五闘士達を救出せよ！と閉じ込められた葵達！！（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「さあ、今回は第2部完結後の番外編のメニュー公開します！」

銀さん「まず、第一弾は、ウイングさんとのコラボ！世界の創立者VS選ばれし子供達&万事屋だ！！」

太一「第2弾は、光軍さんとのコラボ！選ばれし子供達&万事屋と活人剣だ！」

作者「ウイングさん、光軍さん遅くなりましたが、この駄目作者が全身全霊で最高傑作に仕立てます！」

銀さん「というわけで、いよいよ次回は第2部完結だ！楽しみにしてるよ！！」

太一「番外編もな！」

世界崩壊まで後1年!?!と涙と決意の旅立ち!! (前書き)

今回で、ついに第二部完結!子供達は一体どうなるのか!?

世界崩壊まで後1年！？と涙と決意の旅立ち！！

葵達は、強敵ブラックスサノオモンのパワーに悪戦苦闘していた。その圧倒的パワーに対抗策を葵は知っていたが子供達はデジモン達を危険にさらしたくないと一度拒んだ。

しかし、デジモン達は最後まで諦めずに戦うよう子供達を説得し、葵の作戦を実行した。

五闘士達は、デジモン達の連携プレーによって救われた。

…だが、ディアスモンによってさらなる危機に晒された。

ゴゴゴゴゴゴ...

ミニミニ「もう！どうなってるのよ一体！？」

タネモン「落ち着いて、ミニ。でも、本当になにが起こってるの？」

葵「デジライザーの機能が作動していないせいでおメガモンX抗体を戻すことができない。このままだと…世界が崩壊する…！！」

丈「う、うそだろ！？」

プカモン「でも、本当に世界が壊れていつてるぜ。」

すると突然、葵のいた場所が崩れた。

空「きゃー！」

ピヨコモン「空ーーーー！！」

大輔「くそう、こんな所で諦めれるか……！！チビモン！」

チビモン「大輔ーーーー！！」

その時、時間が止まった。

一乗寺「じ、時間が！？」

ワームモン「止まってる……！？」

すると、上空から眩しい光を纏ったヴィッセルゼウスモンが現れた。

ヴィッセルゼウスモン「……どうにか、間に合ったか。」

新八「もしかして、ヴィッセルゼウスモンが時間を止めてくれたんですか？」

ヴィッセルゼウスモン「まあその通りだ、私の力でこの世界を止めた。……しかし、これはあくまでも応急処置みたいなものだからこのままだと後1年しかもたんだろ……。」

光司郎「後1年！？なにか、方法がないんですか？」

テントモン「そうや！まだ、なにかあるはずや！」

ヴィッセルゼウスモン「確かにあるにはある……。お前達がまた別の

世界に行き、そのグランドデジコアの力を少し貰ってきて、この世界のグランドデジコアに注ぎ込めばいい。」

葵「しかし、他の世界に僕達は行けなくされたんだけど？」

ヴィッセルゼウスモン「それならば、心配ない。この世界が一回崩壊しかけた時に結界はなくなっている。」

タケル「太一さんやお兄ちゃん達は!？」

神楽「それに銀ちゃんはどこにいるネ!？」

ヴィッセルゼウスモン「…彼らの反応は、ある世界共々消えた…。」

ヒカリ「い、いやー!お兄ちゃんっ!！」

すると、ヒカリは泣き出した。

タケル「そんな…!？」

葵「まだ諦めるな!今から、僕達は別の世界に行くんだよ?もしかしたら、別の世界に…!！」

テイルモン「葵の言うとおりだ。ヒカリまだ太一達が死んだとは限らないわ!！」

パタモン「希望を捨てないで、タケル、ヒカリ!！」

タケル「パタモン、テイルモン…。有難う…。僕たちは、諦めちゃだめなんだ!！」

神楽「それに、銀ちゃんもそんな簡単にくたばるタマじゃないネ。」

新八「そうだね、必ず生きて「おせーぞ、てめーら！」っていつて
そうだね。」

神楽「そうに決まってるネ。だから、早く見つけてやるアル。」

ヴィッセルゼウスモン「準備はよいか？」

全員「準備完了だ！」

ヴィッセルゼウスモン「それでは、飛ばすぞ。」

すると、葵達は光輝き、そして次の瞬間にはその場所には何もな
った。

ヴィッセルゼウスモン「たのんだぞ、子供達と万事屋……！！」

果たして、彼らは1年後までにグランドデジコアの力を貰ってこれ
るのか？

そして、太一達は本当に生きているのか？

第二部・完

世界崩壊まで後1年！？と涙と決意の旅立ち！！（後書き）

あとがきコーナーV2

作者「ついに、第二部完結したよー！」

銀さん「まあ、ぐだぐだだけどな？」

作者「グサツ！そ、そんなこといわないでよー！」

葵「でも、本当だしね。」

作者「もういいよ？とにかく、今回をもちましてあとがきコーナーV2は終了します。」

銀さん「なんだと！じゃあ、俺たちの出番はどうなるんだ！」

作者「安心しろ。次回から、デジモンヒストリーコーナーを書くから。」

銀さん「なんだ、そりゃ？」

作者「詳しい事はまた次回にということぞ！」

銀さん「仕方ねーな。じゃあ、次回からは、番外編＋デジモンヒストリーだ！また見るよー！」

特別番外編第1弾！世界の創立者VS選ばれし子供達と万事屋！（前書き）

ようやく、番外編第1弾が出来ました。

ウィングさん、どうもありがとうございました。

出来れば感想下さい！

特別番外編第1弾！世界の創立者VS選ばれし子供達と万事屋！

熱斗「なあ、空今度の世界はどんなのだ？」

空「この世界は…どうやら、デジモンの世界らしいな。」

ロックマン「デジモン？」

ゴゴゴ…ゴゴゴ…

熱斗「じ、地震か!？」

空「違う!あれは…!?!？」

空達の前に、巨大な生物が現れた。

デーモン「うおー!!！」

（1時間前）

大輔「あゝ暇だな。」

ブイモン「そうだな。」

太一「まあ、そういうな大輔、ブイモン。」

アグモン「平和が一番だよ。」

大輔「それはそうだけど。なんか、ないか「ドッカーン!!」う

わぁー。」

ブイモン「だ、大輔!？」

アグモン「人が降ってきた!？」

銀時「痛っ、なんだってんだよ。たくっ!？」

太一「あのゝあなたは、一体?」

銀時「あ?俺は万事屋をやってる坂田銀時だ。」

太一「俺達は、「は、はやくどいてくれ〜!」あつ大輔のことわすれてた!」

銀時「あつすまん。」

太一「じゃあ、仕切り直して俺は八神太一。」

大輔「俺は本宮大輔。」

アグモン「僕はアグモン。よろしくね。」

銀時「ト、トカゲが喋ってる!？」

太一「トカゲじゃなくてアグモン達はデジモンです。」

銀時「デジモン?なんだそりゃ?」

大輔「いろんなデータで出来たデジタルモンスター。通称デジモン

です。」

銀時「ほあゝ。じゃあここはどこなんだ？」

ブイモン「ここは、デジモン達が生きる世界、デジタルワールド！
アグモン「ところで、なんで空からふってきたの？」

銀時「俺が知るか！ソファァで寝てたらここにいたんだよ！」

ゴゴゴゴゴゴ...

アグモン「グルル...!!！」

太一「アグモン、どうした!？」

ブイモン「あつちから、なんかいやな感じがする...!!！」

銀時「なんだそりゃ?」

ブイモン「行こう、大輔！」

大輔「おう！デジメンタルアップ！」

ブイモン「ブイモン、アーマー進化！轟く友情！ライドラモン！」

ライドラモン「大輔乗って！」

大輔「おう、太一さんもはやく。」

太一「ああ!!！」

大輔と太一を乗せてライドラモンは駆けっていった。

銀時「なんだっ たんだ…?」

しかしこの時、銀時の後ろに黒い裂け目ができていた…。

〈西側〉

デーモン「ウォー…!!」

熱斗「あ、あれがデジモンか!？」

空「そうだ! いくぞ熱斗!! 変身!」

ーカメンライド、デイ、デイ、デイエイト!ー

熱斗「変身!」

ーターンアップ!ー

デイエイト「いくぜ!」

すると、デイエイトブッカーをソードモード、デイエイトバツクルからカードを一枚取り出しデイエイトドライバーに入れた。

デイエイト「食らえ! デイエイトスラッシュ!」

デーモン「そんなもの効かんぞ!」

ディエイト「なに!?!」

すると、ブレイラウザーからカードを2枚取り出し、カードをスラッシュした。

ブレイド「ディエイト!リザードスラッシュ!」

デーモン「…なにか、したか?」

ブレイド「全く効いてない…!?!」

デーモン「地獄の業火を受ける!ケイオスフレア!」

ディエイト・ブレイド「ぐわあー!?!」

ディエイトとブレイドは木に叩きつけられた。

デーモン「トドメだ!ケイオ…」「サンダーブレイド!」

デーモン「なんだ!?!」

太一「アグモン、いくぜ!」

アグモン「うん、任せて!アグモン、進化!グレイモン!」

グレイモン「メガフレーム!」

デーモン「ぐっ!?!」

ブレイド「子供!?!」

デイエイト「彼らはデジモンアドベンチャー、デジモンアドベンチャー02の主人公、八神太一と本宮大輔だ。」

太一「なんで、俺達のことを？あなた達は？」

デイエイト「俺は世界の創作者デイエイト。」

ブレイド「そして俺は仮面ライダーブレイドだ。」

デーモン「まさか、また会えようとはな選ばれし子供達…。」

大輔「まさか、お前はデーモン！？でも、あの時ダゴモンの海に閉じ込めたはずだ！」

デーモン「その通り、私はデーモンである日ダゴモンの海に飛ばされた。…しかしこの命の宝玉が私に力を与えてくれたのだ！」

すると、デーモンの胸に命の宝玉が現れた。

デイエイト「そういうことかよ…！」

大輔「なら、今度こそお前を倒してやるぜ！ライドラモン！」

ライドラモン「おう！ブルーサンダー！」

デーモン「無駄だ…！アルゴズフレイム！」

ライドラモンの技はデーモンの技に弾かれ、そのままライドラモンに直撃した。

ライドラモン「ぐわあー！」

ライドラモンはダメージを喰らいすぎてブイモンに退化した。

大輔「ブイモン、大丈夫か!？」

ブイモン「ああ、あいつ以前より数段強くなっていやがる…!!！」

太一「グレイモン、究極体だ!」

グレイモン「太一、分かった!」

すると、グレイモンはアグモンに退化した。

アグモン「アグモン、ワープ進化!ウォーグレイモン!」

デーモン「無駄だというのが分からのか!ダークスプレッター!」

ウォーグレイモン「ガイアフォース!」

デイエイト「俺もいくぜ!」

デイエイトはデイエイトブッカーをガンモードに変化させ、デイエイトバツクルからカードを取り出しデイエイトドライバーにカードを入れた。

デイエイト「食らえ!デイエイトライトニング!」

ガイアフォース+デイエイトライトニングはデーモンの技を押し返し、デーモンに当たった。

太一「やったか!？」

デーモン「クツクツ…!素晴らしい!命の宝玉の力は!！」

大輔「む、無傷!!？」

太一「ば、ばかな!？」

ディエイト「くっそ!あの命の宝玉はやべーな。」

ブレイド「もう無理なのか…!!？」

太一「諦めるな!！」

大輔「そうだが、俺達は諦めねーぞ!！」

ウォーグレイモン「どんな敵だって!！」

ブイモン「俺達は仲間を信じて闘ってきた!！」

太一・大輔・アグモン・ブイモン「だから、俺達は勝てたんだ!！」

銀時「…ふん、ならさっさとこいつを片付けるぜ。」

すると突然、上空に裂け目ができ、銀時が現れ、デーモンに向かって木刀を叩きつけた。

太一「あなたは!!？」

空「あいつは、銀魂の主人公、坂田銀時！なぜ、此処に！？」

銀時「俺が知るかよ、っていうかてめーら誰だ？」

デーモン「ぐっ！貴様！許さん！！」

すると、銀時は軽々とデーモンのパンチを避け、腕にまた木刀を叩きつけた。

デーモン「ぐおー！！」

突然、デイエイトバツクルからカードが飛び出し新しい絵がカードに描かれた。

デイエイト「これは……！！よし、太一、大輔、銀さん、いくぜ！」

デイエイトはそのカードをデイエイトドライバーに入れた。

すると、太一、ウォーグレイモン、大輔、ブイモン、銀時の体が輝きだした。

ウォーグレイモン・太一「俺達の体と心が一つに！！誕生！ビクトリードラモン！」

ウォーグレイモンと太一が合体し究極の竜騎士ビクトリードラモンに進化した。

大輔・ブイモン「アーマーゼヴォリユーション！究極の奇跡が放つ輝き！マグナモンX抗体！」

大輔・ブイモンがアーマーゼヴオリュンし究極の黄金の鎧を身に付けたマグナモンX抗体に進化した。

銀時「な、俺の木刀が!？」

銀時の木刀は、光を放って巨大な剣になった。

ビクトリードラモン「これは…!？」

マグナモンX「すごい、パワーがあふれてくる！」

ディエイト「さあ、一気にいくぜ！」

デーモン「嘗めるなー!アルゴズフレイム！」

ビクトリードラモン「そんなのが何度も効くかよ!ドラモンブレイカー！」

デーモンの放った炎をビクトリードラモンはその手にもった、巨大な剣 ドラモンブレイカー でなぎらった。

デーモン「お、お前たちは一体何者なんだ！」

ディエイト「俺は通りすがりの仮面ライダーだ!覚えとか無くていい。お前は俺達に倒される運命だからな！」

ディエイトはカードを2枚ディエイトドライバーに入れた。

デーモン「させるかー!フレイムインフェルノ！」

マグナモンX「奇跡の輝きに浄化される！エクストリーム・ジハードEX」

デーモンの出した邪悪な炎は、マグナモンX抗体の光で消え去りデーモンは苦しんでいる。

デーモン「ぐおおー！」

銀時「隙ありだ！俺の必殺技パート1クライマックスバージョン！」

〈歌舞伎町〉

新八「こらー！勝手に某有名特撮の技をだすなー！」

神楽「どうしたアルか、急に？」

新八「あれ？なんか、今銀さんが時の列車にのって過去や未来に飛ぶ仮面ライダーの技を使ったような気がして…？」

神楽「そんなはずないアル。あっお変わりネ。」

新八「まだ食うの!？」

〈デジタルワールド〉

デーモン「ぐおおー！」

デーモンの角が銀時の技で体ごと切られた。

ディエイト「さあ、決めるぜー！ディエイトイリリュージョン！」

すると、ディエイトが何人も現れた。

ビクトリードラモン「ふ、増えた!?!」

ディエイト「ディエイトハイパーキック!」

デーモンは何人ものディエイトから回し蹴りを喰らい跡形もなく消し去った。

命の宝玉は何処かへとんでいった。

ディエイト「ふゝ、これで一件落し!」

ディエイトがいい終わる前に突然、上空に大きな穴が開き太一達を吸い込んだ。

全員「うわぁー!」

番外編第2弾に続く…

番外編第2弾！！選ばれし子供達&万事屋VS活人剣！（前書き）

今回は、なんと三作品スペシャルコラボレーション！

光軍さん、できればかんそつください！

番外編第2弾！！選ばれし子供達&万事屋VS活人剣！

太一達は、あるとき銀時と出会った。

銀時と自己紹介をしていた時、突然アグモンとブイモンが西の方向になにかを感じ西側に向かった。

そこでは、命の宝玉のパワーでパワーアップしたデーモンとディエイト達が戦っていた。

命の宝玉のパワーを得たデーモンは圧倒的な差を見せつけるが、太一達の諦めない心が奇跡を起こしディエイトの新しいカードによって太一とウォーグレイモンはビクトリーグレイモンに、ブイモンと大輔はマグナモンX抗体に進化し、力を合わせデーモンを倒した。

しかし、謎の穴が開き太一達を吸い込んだ。

〜東京〜

アグモン「太一〜、太一てっば〜！」

太一「う、ん〜アグモン？」

アグモン「太一、目が覚めた？」

太一「確か…、謎の穴に吸い込まれて…？」

大輔「太一さん、目が覚めたんですね！」

太一「ああ、此処は一体：？」

ブイモン「どうやら、東京みたいだぜ？」

銀時「あ？東京ってなんだよ？」

太一「銀時さん！？ってことはデイエイト達は！？」

銀時「あ？あいつらならいなかったぜ。てゆうか東京ってなんだよ。」

大輔「えっ、銀時さん東京しらねーのか！？」

銀時「しらねーから聞いてんだろっが。」

ブイモン「仕方ないな、じゃあ分かりやすく説明してやるぜ。」

大輔「お前が説明するのか？」

そうして、ブイモンは銀時に分かりやすく説明した。

銀時「ああ、よくわかったぜ。」

太一「ちよつと、まって！！？あたかも、説明したようにしてんじやねーよ！！？」

だって話が長くなるんだもん！

太一「だもん！っじゃねーんだよ！？なにかわいくいってんだよ！？全然かわいくねーんだよ！」

アグモン「太一、さっきから誰に言ってるの？」

銀時「とりあえず、どうする…」「キヤーツ!!」「」

アグモン「太一、何かあったみたいだよ!？」

太一「言ってみよう!」「」

〈数十分前〉

雷堂「晴樹よ、まだ終わらんのか?」「」

晴樹「そんなに言うなら、少しぐらい減らして下さいよ、先生。」

雷堂「素振り一万回位できなくて、どうする。」「」

晴樹「そんなこと、言われても。ぜえ、ぜえ、ぜえ。」「」

雷堂「ほら、早くしないと千回プラスするよ?」「」

晴樹「先生の鬼〜!!」「」

ゴゴゴ…ゴゴゴ…ドッカーン!!

晴樹「うわわ!?!な、何だ!?!」「」

晴樹は門から顔を出しなにかあったのか確認した。

晴樹「なっ!?!き、き、恐竜!?!」「」

雷堂「ん？ああ、あれはデジモンだよ。」

晴樹「デジモン？っていうか沢山いるんですけど！？」

雷堂「確かに：なんか、あつたみたいだな。」

すると、雷堂はあることを考えた。

雷堂「晴樹、あのデジモン達から人々を助けなさい。この試験に合格したら、一週間修行を休みにしてやるう。」

晴樹「先生！？無理無理！！！あんなの勝てないって！！！」

雷堂「いいから、早く行け。」

雷堂は、晴樹を思いつきり投げ飛ばした。

運悪く、晴樹が落ちたのはオーガモンの目の前だった。

オーガモン「ヒヤッハ！！霸王拳！」

晴樹「いや！！！！」

フレイドラモン「フレイナツクル！」

オーガモンの放った霸王拳は横から飛んできたフレイナツクルによって相殺された。

大輔「大丈夫か！？」

太一「アグモンいくぜ、進化だ！」

アグモン「うん！アグモン、進化！グレイモン！」

グレイモン「メガフレイム！」

オーガモン「邪魔すんじゃねー！霸王拳！」

メガフレイムと霸王拳はぶつかり合い拮抗し爆発した。

大輔「今だ、フレイドラモン！」

フレイドラモン「任せろ！ファイヤーロケット！」

オーガモン「甘いぜ！骨棍棒！」

フレイドラモン「しまった！ぐはっ！？」

大輔「フレイドラモン！」

オーガモン「ヒヤッハッ！甘いんだよ！」

銀時「お前がな！オラァー！」

銀時はいつの間にか、オーガモンの後ろに達思いきり木刀をオーガモンの頭に振り下ろした。

オーガモン「ぐがあっ！？」

オーガモンはそのまま、前に倒れた。

太一「どうやら、あの穴からデジモン達が出てきてるみたいだな。」
晴樹「君達は一体…?」

グレイモン「そんな事より早く、デジモン達を追い返さないと!」

太一「そうだな。」

晴樹「俺も手伝っぜ!」

大輔「でも…!!」

晴樹「頼む…!!」

太一「分かった。だけど無茶はするな。」

大輔「しょうがねえ頼むぜ、晴樹!」

晴樹「ああ!!」

謎の穴からは大量にデジモン達が放出されていた。

太一「いいか?できるだけ気絶させるんだ!!」

全員「OK!」

太一、グレイモン、大輔、フレイドラモン、銀時、晴樹は順調にデジモン達を気絶させていった。

パロットモン「キーツキーツ!!ミヨルニルサンダー!」

フレイドラモン「大輔、あぶない!!」

フレイドラモンは大輔を抱え、パロットモンの雷撃から避けた。

大輔「ひび、あつぶね〜。」

太一「残るは、パロットモン…完全体か。グレイモン、超進化だ!」

グレイモン「グレイモン、超進化!メタルグレイモン!」

パロットモン「ソニックデストロイヤー!」

メタルグレイモン「ギガデストロイヤー!」

二つの技は全く同等のパワーでぶつかり、爆発した。

銀時「晴樹、タイミング合わせろ!」

晴樹「了解!」

銀時と晴樹は同時に木刀をふりおろした。

パロットモン「キーンツ!ミヨルニルサンダー!」

フレイドラモン「メタルグレイモン、ギガデストロイヤーを!」

メタルグレイモン「おう!ギガデストロイヤー!」

フレイドラモンはギガデストロイヤーに乗り、ミヨルニルサンダー

をかわした。

フレイドラモン「食らえ！ファイヤーロケット！」

パロットモンはギガデストロイヤーとファイヤーロケットを喰らい、
気絶した。

晴樹「ふゝ、これで終わった？」

メタルグレイモン「グルル〜！！」

太一「まだまだ！！」

ガルフモン「デッドスクリーム！」

メタルグレイモン・フレイドラモン「グワァー！！！」

メタルグレイモンとフレイドラモンは凄まじい破壊力の技を喰らい、
コロモンとチビモンに退化した。

太一「コロモン！」

大輔「チビモン！大丈夫か！？」

チビモン「うん…。ごめんね、大輔。」

ガルフモン「その程度か、選ばれし子供達の実力は？」

銀時「誰だ、てめーは！？」

ガルフモン「私の名はガルフモン、さあ、貴様に地獄の旅をプレゼントをくれてやるよ。」

晴樹「俺は、もうとっくに地獄だつづつの!!」

「????」

雷堂「ハックション!誰か私の噂してるのか?」

〈東京〉

ガルフモン「ふん、ならば本当の地獄は知ってるか?ブラックレクイエム!」

銀時「くっそ!晴樹!」

晴樹・銀時「ぐはっ!!」

太一・大輔「晴樹、銀時さん!!」

大輔「もうだめなのか!?!」

デイエイト「てめーらは仲間を信じてるから勝ててきたんだろ。なら、信じるよ。」

大輔「デイエイト!!」

ブレイド「ふ〜、やっと見つけたぜ。さあ、反撃開始だ!」

太一「でも、コロモン達が!!」

ディエイト「任せろ。」

すると、ディエイトはディエイトバツクルからカードを一枚取り出しディエイトドライバーに入れた。

《アタックライド、リカバリー》

コロモン「ち、力が……！！コロモン進化！アグモン！」

チビモン「チビモン、進化！ブイモン！」

大輔「進化した！？」

ディエイト「さあ、一気に行くぜ。」

ディエイトはまた、カードをディエイトドライバーに入れた。

大輔・ブイモン「アーマーゼヴオリューション！究極の奇跡が放つ輝き！マグナモンX抗体！」

アグモン・太一「真・究極進化！誕生！ビクトリーグレイモン！」

銀時「へっ、この剣なんだかしっくりくるんだよね。」

ディエイト「晴樹、お前にはこれだ。」

ディエイトはさらに、カードをディエイトドライバーに入れた。

すると、晴樹の持っていた木刀が変化し盾に剣が刺さったものに変化した。

デイエイト「それは、プリズムビッカー！仮面ライダーWサイクロンジョーカーエクストリームの武器だ。」

晴樹「はい？なんて？」

デイエイト「とにかく、そのメモリを差し込め！」

晴樹「これか？」

《サイクロン、マキシマムドライブ》

ガルフモン「嘗めるなー！デッドスクリーム！」

マグナモンX「させないぜ！エクストリーム・ジハードEX」

ガルフモンの邪悪な波動をマグナモンX抗体の黄金の輝きが押し返した。

《ヒート、マキシマムドライブ》

ビクトリーグレイモン「俺達は必ず勝つ！たとえどれだけ強い奴でも！トライデントガイア！」

ガルフモン「グオオーー！調子に乗るな！ブラックレクイエム！」

ブレイドは右手にアブソーバーをセットし、「J、Q、Kのカードをアブソーバーに入れた。」

《《ヒュージョンジャック、アブソードクイーン、レボリユーシヨ

ンキング》》

すると、ブレイドはキングフォームに強化変身した。

《《ロイヤルストレートフラッシュ！》》

ブレイドキングフォームの目の前にディメンションカードが13枚現れブレイドはそのカードの力を込めた斬撃をガルフモンに喰らわせた。

ブレイドキングフォーム「今だ、ディエイト！」

ガルフモン「な、何者なんだおまえ達は！！？」

《ルナ、マキシマムドライブ》

ディエイト「通りすがりの仮面ライダーだ！覚えとか無くていい。お前は俺達に倒される運命だからな！」

ガルフモン「ふざけるなー！！！」

ディエイトはカードを2枚入れた。

《ジョーカー、マキシマムドライブ》

ディエイト「晴樹、タイミングを合わせるぞ。」

晴樹「了解。」

ディエイト「今だ！」

デイエイトイリユージョン

デイエイト「デイエイトハイパーキック！」

デイエイトはデイエイトイリユージョンの効果で何体も現れれ強烈なキックをかました。

晴樹「トドメだ！ピッカーチャージブレイク！」

全員「いつけー！！！！」

ガルフモン「ば、馬鹿な…！！！？ウオーー！！！」

ガルフモンは光の粒子となって消えた。

デイエイト「太一、アグモン、大輔、ブイモン、銀時、世界を閉ざす前にお前達を元の世界に戻す。その時の影響で恐らく俺達と出会った記憶が消えるだろう。」

ブイモン「えー！？俺、デイエイト達の事忘れたくない…！！！」

デイエイト「大丈夫だ、俺達は仲間だろ！」

大輔「そうだが、ブイモン、例え記憶がなくても心には残るはずだ。」

太一「大輔の言うとおりだ。」

アグモン「ありがとう、デイエイト、ブレイド、晴樹。」

ディエイト「俺達こそ、ありがとう。」

晴樹「短い間だったけど、絶対に心に君達の事を刻むよ。」

ディエイト「ほら、そろそろ、閉じるぞ。」

太一・アグモン・大輔・ブイモン「また会おうな！」

銀時「なんか、あつたら万事屋にきな。じゃあな。」

ディエイト「ブレイド、次の世界にいくぞ。」

ブレイド「ああ、いいやつらだったな。」

ディエイト「そうだな。3つの世界はあいつらに任せるぞ。」

晴樹「また、会おうな。選ばれし子供達、万事屋、世界の創立者達

…！」

こうして、一つの物語は終わった。

しかし、彼ら自身の物語はまだまだ続く！

謎の石碑と進化不能でいきなり大ピンチ!? (前書き)

いよいよ、第3部が開始!

第1部、第2部を超える面白さを目指すんで応援お願いします!

あと、ちょっとしたことでもいいんで感想をくれると嬉しいです。

謎の石碑と進化不能でいきなり大ピンチ！？

葵達は、ディアスモンの罠にかかり世界が崩壊しかけた。

しかし、崩壊直前にヴィッセル・ゼウスモンが現れ、その力で崩壊をなんとか抑えた。

だが、選ばれし子供達は別の世界のグランドデジコアのパワーを集めなくては、あと1年で崩壊してしまう。選ばれし子供達はまた別の世界に飛んだ。

く???く?

葵「…大輔君、大輔君！」

大輔「うくん、葵？」

葵「やつと起きた？」

ブイモン「タケル達は、もう起きて辺りを搜索してるよ」

葵「どうやら、この世界に来たのは俺に大輔君、一乗寺君、ヒカリさん、京さん、伊織君、タケルくん、そしてパートナーデジモン達みたいだね。」

大輔「ふくん。じゃあ、俺達も…。」

タケル「おーい、大輔君、葵さん。」

葵「どうしたの、タケル君？」

タケル「謎の石碑を見つけたんだけど、ちょっと気になったから見
てもらおうと思って。」

葵「じゃあ、いってみようか。」

タケル「葵さん、ペガスモンに乗って下さい。」

葵「分かった。」

ブイモン「ライドラモンに進化だ。」

ブイモン「うん、ブイモン、アーマー進化！轟く友情！ライドラモ
ン！」

大輔「行くぜ！」

（謎の石碑の前）

葵「この石碑だね？」

タケル「はい、何か分かりますか？」

葵「うん、僕も分からないな。」

大輔「なあ、なんか変なくぼみがあるぞ。」

ブイモン「あつ本当だ。」

大輔が指差したところに8つの形が違つくぼみがあった。

タケル「このくぼみ…。」

パタモン「デジメンタルの形に似てる…!」

ブイモン「デジメンタルをはめ込んでみようぜ!」

葵「なら、みんなを戻そう。」

〈数分後〉

葵「全員集まったね?」

ヒカリ「デジメンタルをはめ込んでみましょう。」

大輔達はデジメンタルをD-3から取り出し、くぼみに入れた。

ガチャンツ!ゴゴゴ…

京「はめ込んだら駄目だったんじゃない…?」

ホークモン「京さん、あれを!」

石碑の後ろの壁が動き、光が漏れ出した。

伊織「眩しい…!」

アルマジモン「太陽みたいだぎゃ…!」

メタルシードラモン「アルティメットストリーム！」

葵「伊織君、危ない！」

伊織「えっ!？」

アルマジモン「伊織ー!！」

伊織はアルマジモンに押されギリギリアルティメットストリームをかわした。

テイルモン「あの技は…!？」

メタルシードラモン「はずれたか、さすがだな選ばれし子供達。」

ヒカリ「メタルシードラモン!？」

ピノツキモン「ブリットハンマー！」

葵「デジメモリ!バンチョーレオモン、GAKU-RAN発動!

すると、葵の前に半透明なバンチョーレオモンが現れた。

バンチョーレオモン「GAKU-RAN！」

バンチョーレオモンの羽織っているGAKU-RANによってダメージはかなり減った。

ピノツキモン「ふーん、選ばれし子供達もずいぶん変わったね。」

タケル「ピノツキモン…!?!」

大輔「あいつらをしってんのか!?!」

伊織「太一さん達が1999年の夏に戦った相手ですよ!?!」

大輔「ブイモン、進化だ!」

ブイモン「おう!ブイモン、進化!エクスブイモン!」

しかし、ブイモンは進化せずブイモンのままだった。

大輔「どうしたんだよ!ブイモン!?!」

ブイモン「進化できない…!?!」

ヒカリ「そんな!?!」

テイルモン「アーマー進化は!?!」

葵「駄目だ。くぼみから抜けない!」

伊織「そんな、進化できないなんて…!?!」

葵達は謎の石碑の前でダークマスターズ2体の相手に通常進化、アーマー進化できず大ピンチ!

果たして、このピンチを乗り越えられるのか?

To be continued...

謎の石碑と進化不能でいきなり大ピンチ!? (後書き)

「デジモンヒストリー」

作者「さあ、第3部開始と同時に新コーナー、デジモンヒストリーが始まりました!」

銀さん「一体どんなコーナーなんだ?」

作者「デジモンヒストリーはデジモンアドベンチャーの第1話から最終話までを振り返ってみるコーナーです。第1回は、第1話と第2話です!」

太一「第1話のタイトルは確か「漂流?冒険の島!」だったな。初めて、俺達がデジタルワールドに行き、アグモン達と出会った記念の第1話だな。」

葵「第2話は「爆裂進化!グレイモン!」だね。アグモンが、太一君を救う為に初めてグレイモンに進化した話だよな。」

銀さん「太一達も大変だったな。」

太一「まだまだ、あるけど…長くなるからまた次回のデジモンヒストリーで!」

作者「また次回もお楽しみに!」

デジメンタルの真の力と新たなるアーマー進化！

葵達は、謎の石碑がある世界にやって来た。

謎の石碑には、デジメンタルをはめ込むくぼみがあった。

大輔達がくぼみにデジメンタルをはめ込むと石碑の後ろの壁が動き、眩しいまでの輝きがこぼれた。

その時、1999年の夏に太一達が戦ったダークマスターズのメタルシードラモンとピノツキモンが襲いかかる。

ブイモン達は進化しようとしたが、何故か進化できず、デジメンタルもはめ込んで抜けなくなって、通常進化もアーマー進化を封じられた。

ピノツキモン「ハハハ、どうしたの。進化してみてよ。」

大輔「くっそ〜！！葵さん、ウォーグレイモンX抗体達を！」

葵「よし、分かった！」

メタルシードラモン「させるか！ポセイドンディバイド！」

すると、葵の周りに水が現れ葵を水球に閉じ込めた。

葵「！！！？ゴボツ！」

伊織「葵さん！」

メタルシードラモン「これで、貴様達は刃向かう手段をなくしたな。フハハ！」

葵「ゴボツゴボツ!!」

タケル「葵さん!!葵さん!!」

パタモン「エアースョット!!」

テイルモン「ネコパンチ!!」

パタモンとテイルモンは水球に向かって技を放ったが全く効果がないかった。

パタモン「駄目、僕達の技じゃ効かないよ!!」

テイルモン「進化さえできれば!!」

ピノッキモン「さあ、これで終わりだよ!ブリットハンマー!!」

デジモン達「きゃあー!!」

ヒカリ「テイルモン、しっかりして!!」

大輔「くそう!このまま、負けちまうのかよ!?なんで進化出来ないんだよ!!」

???「...デジメンタルの真の力を解放したためだ...」

大輔「誰だ！？デジメンタルの真の力！？」

メタルシードラモン「どうした、追い込まれて頭がおかしくなったか？」

ピノツキモン「かわいそうに、すぐに楽にあげるよ。ブリットハンマー！」

「???」「デジメンタルの真の力に対応するためには、新たなる形を作らなければいけない、想像するのだ、新たなるデジメンタルを……！！」

大輔「新たなるデジメンタルを想像する……。」

京「私たちが新しいデジメンタルを……！！」

すると、壁のくぼみにはまったデジメンタルが輝きだし、大輔達の前に飛んできて、ブリットハンマーを弾き返した。

ヒカリ「これが新しいデジメンタル……。」

ピノツキモン「な、なに！？一体何なのあれ……！！」

メタルシードラモン「あれは……！？昔、ピエモンから聞いたことがある……。その昔、古代のデジモン達はデジメンタルを使い究極体以上のパワーを持つデジモンに進化できた。としかし、その力は適合性がなければ危険過ぎるということ、ある世界でデジメンタルのパワーを成熟期と同等に封印したと……！！」

ブイモン「この光、とても暖かい。」

テイルモン「そして、力が漲ってくる！」

アルマジモン「伊織、進化だぎゃ！」

ホークモン「京さん、反撃開始です！」

伊織「うん、みなさん！」

京「今までの分、返してやるわ！」

大輔達「デジメンタルアツプ！！」

ブイモン「ブイモン、アーマーゼヴオリューション！灼熱の勇氣！
フレイドラモンX抗体！」

ホークモン「ホークモン、アーマーゼヴオリューション！天空を包
容する愛情！ホルスモンX抗体！」

アルマジモン「アルマジモン、アーマーゼヴオリューション！ディ
グモンX抗体！」

パタモン「パタモン、アーマーゼヴオリューション！ペガスモンX
抗体！」

テイルモン「テイルモン、アーマーゼヴオリューション！ネフェル
テイモンX抗体！」

ここに時間を超え、真のアーマー進化をした五体のデジモンがそろ
った。

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d
.

デジメンタルの真の力と新たなるアーマー進化！（後書き）

（デジモンヒストリー）

作者「さあ、今回のデジモンヒストリーは？」

銀さん「第3話と第4話だな。」

太一「第3話は「蒼き狼！ガルルモン！」だな。」

作者「たしかこの話で戦ったのは、シードラモンだったな。」

太一「ああ、あの時はまだ進化の仕方が分からなかったからガルルモンに任せるしかなかったんだよね。」

銀さん「第4話は「灼熱！バードラモン！」だな。」

太一「メラモンが黒い歯車に操られてピヨコモンの村を襲ったんだよね。グレイモンのメガフレームが効かなくて焦ったな。」

銀さん「そして、空がピンチの時にピヨモンがバードラモンに進化して救ったんだよね。」

作者「まだまだ、いろいろな冒険があったけど、それはまた次回に！」

太一「感想お待ちしています！」

究極合体技発動！と 現れた近衛騎士！（前書き）

今回は久々にあいつが登場！

さらに、究極の合体技が発動！果たして、その威力は…？

究極合体技発動！と 現れた近衛騎士！

葵達は謎の石碑がある世界にきた。

そこでダークマスターズであるメタルシードラモンとピノッキモンに襲われた。

しかし、ブイモン達は何故か進化できず窮地に追い込まれた。

その時、謎の声が大輔達を導きデジメンタルの真の力を解放するために新たなデジメンタルの形を想像した。

新たなるデジメンタルの力でアーマーゼヴオリューションした。

一乗寺「アーマーゼヴオリューション…！？」

葵「ガボツゴボツゴボツ！！」

大輔「葵さん！フレイドラモンX抗体！葵さんを助けるんだ！」

フレイドラモンX「任せろ！アポロニス・ファイヤー！」

すると、フレイドラモンX抗体の体全体を高熱の炎で包み、その熱で水球を蒸発させた。

葵「ゴホツゴホツ！ハアハア、助かったよ、ありがとう。…って誰？」

フレイドラモンX「新たなデジメンタルで進化したフレイドラモン

「X抗体だ。」

ピノッキモン「いつまでも、調子に乗らないでよ！フライングクロスカッター！」

ホルスモンX「遅いですよ！マツハミラージュ！」

すると突然、ホルスモンX抗体が十数体現れた。

京「ホルスモンX抗体が何体にも!?」

一乗寺「ちがう！速すぎて何体にも見えるんだ。」

ピノッキモン「えーい、もういいや！まとめて倒してやる！ブリットハンマー！」

数十体のホルスモンX抗体は難なくかわした。

ホルスモンX抗体「シューティングインパルスカッター！」

数十体のホルスモンX抗体は同時に真空のカッターを放った。

ピノッキモン「うわぁー!?…よくもやったな〜！ドリルノーズ！」

デイグモンX抗体「本当のドリルの違いを教えてやるだぎゃー！ドリルツイスター！」

ピノッキモンのドリルはデイグモンX抗体のドリルによって砕けた。

デイグモンX抗体「今だぎゃー！ドリルバスター！」

ピノッキモン「うわぁ・・・！ううくそう了！」

「乗寺」どうやら、今回は僕達の出番はないみたいですね。」

葵「そうだな。しかし、凄まじいなこれがデジメンタルの真の力。」

ワームモン「いいな。」

メタルシードラモン「おのれ〜！ちょこまかと！！ポセイドンデイド！」

すると、ペガスモンX抗体とネフェルティモンX抗体は水球に包まれた。

タケル「ペガスモンX抗体！」

ヒカリ「ネフェルティモンX抗体！」

すると、ペガスモンX抗体とネフェルティモンX抗体が輝きだし、水球を破った。

メタルシードラモン「なに！？」

ペガスモンX「私達には、そんなものは通用しない！シューティングメテオズ！」

ペガスモンX抗体の後ろから、いくつもの隕石がメタルシードラモンに降り注いだ。

メタルシードラモン「グオオー！ハアーツハアーツ！！もう許さん！ヘルスクイーズ！」

ネフェルティモンX「光よ、私に力を！シャイニングクイーンフォース！」

ネフェルティモンX抗体の前に出来た巨大な光の玉はそのまま、メタルシードラモンの技ごとメタルシードラモンに直撃した。

メタルシードラモン「くそうっ！こうなったら！」

すると、すぐ近くにいたピノツキモンに噛みついた。

ピノツキモン「な、何を…！？うわぁー…！！！」

京「ピノツキモンを食べた…！？」

葵「ピノツキモンの力を奪ったんだ…！！！」

一乗寺「ピノツキモンの力を！？」

メタルシードラモン「グハハ、喰らうがいい！ブリットハンマー！」

大輔「うわぁー！」

ネフェルティモンX「みんな！ペガスモンX抗体！」

ペガスモンX「ああ、ヘブンズシールド！」

ネフェルティモンX抗体とペガスモンX抗体は力を合わせて聖なる

シールドをつくり、大輔達を守った。

大輔「この技は…！」

フレイドラモンX「ピノツキモンの技だ！だけど、威力は段違いだ…！！」

葵「ピノツキモンの力を吸収したからだ。」

メタルシードラモン「ふん、小賢しい！これで終わりだ！アルティメットサンダーストリーム！」

ペガスモンX「やばい！このままじゃバリアが！」

???「…みんなの力を合わせるんだ…究極合体技を使え…。」

大輔「また！？みんな、聞こえたか！？」

伊織「はい、でも究極合体技って…？」

???「…精神を極限まで高めて、一気に放つのだ…。」

ヒカリ「精神を極限まで高める…。」

タケル「とにかく、やってみよう！」

京「そうね！それ以外無いんだし！」

すると、大輔達は目を瞑って精神集中した。

フレイドラモンX「感じる、大輔達の力が…!!」

一乗寺「もうもたない!」

すると、バリアはアルティメットサンダーストリームによって砕けた。

メタルシードラモン「今更、小細工など無意味!消え失せる!」

ヒカリ「今よ!」

フレイドラモンX・ホルスモンX・ディグモンX・ペガスモンX・ネフェルティモンX「みんなの心の力を食らえ!アルティメットエクスキューション!」

青・赤・黄・緑・ピンクの五色の輝きが一つになりアルティメットサンダーストリームを貫いて、メタルシードラモンを消し去った。

葵「なんて、パワーだ…!!」

一乗寺「あの、メタルシードラモンを跡形もなく消し去るなんて…。」

すると、フレイドラモンX抗体達は幼年期に退化した。

チビモン「もう、動けない…。」

大輔「チビモン!?大丈夫か!」

葵「大丈夫だよ。さっきの技で力を使い過ぎただけだよ。」

ヒカリ「…良かった。」

近衛「…見せてもらったぞ。…究極合体技をな。」

タケル「き、騎士さん…!?!?」

葵「近衛!?!?」

再び、子供達の前に現れた近衛騎士。

一体、彼の目的は何か?

T o b e c o n t i n u e d . . .

究極合体技発動！と

現れた近衛騎士！（後書き）

「デジモンヒストリー」

作者「さあ、今回も張り切っていていこう！」

銀さん「本編の雰囲気ぶち壊しだな。」

太一「まあまあ、とにかく今回は第5話と第6話についてだな。」

銀さん「第5話は「電光！カブテリモン」だな。この第5話で初めて完全体が登場したんだよな。」

太一「そうそう、あの時はグレイモンとガルルモンが協力したんだけど全然歯が立たなかったからな。」

作者「あの時、テントモンがカブテリモンに進化しなかったら、危なかったな。」

太一「でも、アンドロモンは後半で一緒に戦ったんだよな。」

銀さん「次は、「パルモン怒りの進化！」だな。この時の敵も完全体のもんざえモンだったな。」

太一「あの時は、ミミちゃんとデジモン達以外おもちゃのおもちゃにされて大変だったな。」

銀さん「しかし、本編には少ししかなかったけど、完全体って強いんだな。」

作者「デジモンの中でも最強らしいからな。」

太一「そういう事でまた次回！」

作者「あっ忘れていた。次回は重大なお知らせがあります！」

因縁の大激戦！近衛騎士VS葵（前書き）

今回は、あとがきで重大（？）発表があります！

お見逃しなく！

因縁の大激戦！近衛騎士VS葵

大輔達はデジメンタルの真の力を使い、ブイモン達をアーマーゼヴ
オリユーションさせて、ピノッキモンとメタルシードラモンを追い
詰めた。

だが、メタルシードラモンがピノッキモンを喰らって力を奪いパワ
ーアップした。

そのパワーはフレイドラモンX抗体達をも上回ったが、謎の音がま
た聞こえ、究極合体技を使うよう言った。

究極合体技のパワーはメタルシードラモンが放ったアルティメット
サンダーストリームをも上回りメタルシードラモンを消し去った。

だが、そこに近衛騎士が現れた。

騎士「…久しぶりだなタケル、葵。」

タケル「近衛さん！？なんでここに…！？」

葵「騎士！貴様だけは許さん！出て来い！ウォーグレイモンX抗体
メタルガルルモンX抗体！」

タケル「葵さん！？」

葵の顔には今までにないほどに怒りが現れていた。

騎士「…いきなりとはな…。少しは落ち着け…。」

葵「うるさい！必殺技だ！」

ウォーグレイモンX「ガイアフォースZERO！」

メタルガルルモンX「コキユートスブレスX！」

ナイトオブラウンドモン「フルムーンシールド！」

ウォーグレイモンX抗体とメタルガルルモンX抗体の技は突然現れたナイトオブラウンドモンの満月のシールドにはじかれた。

ナイトオブラウンドモン「全く、せっかちよね。私達は闘つつもりはないんだけど？」

ウォーグレイモンX「うるせえ！ドラモンキラー！」

ナイトオブラウンドモン「どうしてもやりたみたいね。なら、頭に恐怖をたたき込んでやるわ！ザンコウ・スマッシュ！」

ウォーグレイモンX抗体とナイトオブラウンドモンの力は互角で何回も打ち合った。

メタルガルルモンX「ターゲットロックオン、メタルストーム！」

メタルガルルモンX抗体の背中に装備されたカタパルトから無数のミサイルが射出された。

ナイトオブラウンドモン「そんなもの効かないわよ！ムゲン・エクスキューション！」

無数のミサイルはほとんど、打ち落とされた。

大輔「葵さん、落ち着いてくれよ。」

しかし、葵は大輔を相手にせずウォーグレイモンX抗体達に指示した。

京「だめだわ、完全に頭に血が上って聞こえてないわ！」

ヒカリ「なんとか、止めないと！」

チビモン「だけど、さっきの進化で体力が残ってないよ。」

ウパモン「おいらも動けないぎゃ〜。」

伊織「ただ見てるだけなんて…!!！」

タケル「一体葵さんと近衛さんになにがあつたんだ…?」

騎士「…ナイツオブラウンドモン、時間だ。…いくぞ。」

ナイツオブラウンドモン「は〜い。決着はまたね。」

ウォーグレイモンX「なんだと!?待ちやがれ!」

騎士「…葵、その程度の力では、ユリを救うことは出来ん。」

葵「何だと!? 貴様…!!！」

ナイトオブラウンドモン「バイバイ 次はもうちょっと手応えがあるようにしなさいよ。」

ウォーグレイモンX「逃がすか！ガイアフォースZERO！」

しかし、ガイアフォースZEROはナイトオブラウンドモンに当たらずにそのまま山を消し去った。

メタルガルルモンX「…反応…ロスト…」

葵「ちつくしよー！！」

葵の悲痛なこだまは何回も響いた。

T o b e c o n t i n u e d . . .

因縁の大激戦！近衛騎士VS葵（後書き）

作者「今回はデジモンヒストリーはなしで重大発表します！」

銀さん「一体、なんだ？」

作者「もうすぐ、PVが3万突破します！それを記念して、特別編をもうすぐ投稿します！」

太一「またかよ？そんなことやってるひまがあつたら本編に力を入れるー！」

葵「まあ、いいじゃない。でどんな話わけ？」

作者「君たち、デジモンシリーズの登場人物で誰が最強か分かるかい？」

銀さん「しらねーよ。」

作者「やっぱりな。そこでだ、もしデジモンシリーズの登場人物が戦ったら誰が最強か試してみようっていう話。」

太一「まあ、詳しい話は今度ということ。皆さんは誰が最強だと思えますか？」

史上最悪な戦い！！ VS ダークオメガモン（前書き）

作者「更新が遅くなってすみません？」

銀時「なんで、遅れたんだ？」

作者「し、資料集め？…あはは？」

葵「ロストエボリューションしてたのに？」

作者「いや、資料集めです？」

太一「まあ、とにかくちゃんと更新しろよ？」

作者「はい？すみません。」

史上最悪な戦い！！ VS ダークオメガモン

突然、現れた近衛騎士に対して異様なまでに怒りをぶつける葵は騎士に執拗な攻撃をしかける。

だが、ナイツオブラウンドモンが現れ防ぎ、激闘を繰り広げるものの騎士は途中で戦闘をやめ、そのまま去っていった。

「????」

ちょうどその時、ミミ、空、丈、光司郎、神楽は最凶の敵と戦っていた。

「数十分前」

空達は、まだ気絶したままの五闘士達を新八にまかせて、今の世界のことを調べていた。

ミミ「森ばかりね、リリモンなにか見える？」

リリモン「空からみても森しか見えないわ。」

光司郎「この世界は森の世界なんですかね？」

テントモン「ほな、どうやってグランドデジコアを見つけたらいいんや。」

空「あつ、バードラモン！何かあったの？」

バードラモン「あつちに大きな樹があつて、その樹の根の辺りが光
ってるの。」

丈「もしかして、それじゃないか！？行ってみよう！」

空「そうね、バードラモン！ガルダモンに進化よ！」

バードラモン「バードラモン、超進化！ガルダモン！」

ガルダモン「みんな、乗って。」

すると、神楽の腹の虫がなつた。

神楽「私、腹減つたネ、アレ食つていいアルか？」

すると、神楽の指差した方向にはスカモンがいた。

全員「食えるわけねーだろ！さつさと乗って！」

神楽「…腹が減つて、倒れそうアル。」

まだ、ブツブツ言っている神楽を乗せたままガルダモンは大樹に向
かった。

く巨大大樹の根く

ミミ「本当にでかいわね。」

リリモン「本当ね。あっあれ！」

リリモンが示した場所が輝いていた。

神楽「どうやって、調べるネ？」

光司郎「取りあえず、表面を調べ…「ダークガルルキャノン！」」

光司郎が言い切る前に黒いエネルギー弾が、光っていた場所の表面を吹き飛ばした。

丈「な、なんだ今の！？大樹の表面を消し去った！？」

ゴマモン「あれを見る！」

空「…え！？太一、ヤマト！！？」

神楽「…銀ちゃん？」

テントモン「あんさんら、無事やったんか！？」

テントモンが近付こうとした途端、光司郎が止めた。

光司郎「まつんだ！よく見て下さい、あのオメガモンを…！！！！」

リリモン「黒い、オメガモン！？」

すると、黒いオメガモンはいきなり空に向けて、砲撃してきた。

ダークオメガモン「ダークガルルキャノン！」

空「え…うそでしょ…？」

ガルダモン「空、あぶない！」

危機一髪、ガルダモンが空を抱えてよけた。

空「…そんな、太一、ヤマト私分からないの!？」

光司郎「空さん、落ち着いて下さい!恐らく、太一さん達は五闘士達の時と同じで操られているんです!」

神楽「なら、叩きのめして、目を覚まさせるね!」

すると、銀時は大刀を神楽に向けて振り回した。

しかし、神楽は日傘でガードした。

銀時「…敵を排除する。」

太一「…排除せよ、排除せよ…。」

ヤマト「敵を排除せよ。」

ダークオメガモン「ダークグレイソード!」

丈「ゴマモン!進化だ!」

ゴマモン「ゴマモン、ワープ進化!ズドモン!」

ズドモン「ハンマースパーク!」

ダークオメガモンのダークグレイソードとズドモンのハンマーがぶつかり合った。

丈「目を覚ますんだ、君達！」

ズドモン「お前たちの心は闇に操られるようなものじゃないだろうが！」

ダークオメガモン「…うるさい、ダークガルルキヤノンバースト！」

黒いガルルキヤノンが雨のようにズドモンに襲いかかった。

ズドモン「うわぁー！！！」

丈「ズドモン！大丈夫か！？」

光司郎「テントモン、いきますよ！」

テントモン「任せとき！絶対、目を覚まさせたるで！テントモン、ワープ進化！アトラーカーブテリモン！」

ガルダモン「太一、ヤマト、銀時さん、絶対に助けるわ！」

リリモン「みんな、いくわよ！」

ズドモン「オメガモン、いくぜ！」

アトラーカーブテリモン「わたらの絆と心は闇に負けんことを教える！」

果たして、ダークオメガモンと太一達を救えるのか！？

T o b e c o n t i n u e d . . .

史上最悪な戦い！！ VS ダークオメガモン（後書き）

（デジモンヒストリー）

作者「さあ、今回は第7話、第8話を紹介します。」

葵「今回は、諸事情で太一と銀さんの代わりにヤマトと土方にきてもらいました。」

土方「まだ本編では、すこししかでてないんだからさっさと出さないと斬り殺すぞ？」

作者「は、はい？とにかく、紹介いつてみよう！」

ヤマト「第7話は「咆哮！イツカクモン」だな。」

葵「この回で、ゴマモンがイツカクモンに進化したんだよね。」

ヤマト「ああ、あの時はムゲンマウンテンにのぼるかのぼらないか太一と喧嘩したんだ。」

土方「第8話は「魔の使者デビモン！」だ。最初の敵デビモンが初めてでた話だよな？」

ヤマト「そうだ、最初にオーガモンと操られたレオモンが襲いかかったんだ。その時は、ガブモン達が進化してなんとかなったけど、その後デビモンの罠によって俺たちは散り散りになったんだ。」

作者「さて、それじゃあ、続きはまた次回！」

決死の願い！俺達を倒せ激闘のまさかの決着！

光司郎達は森の世界にやって来た。

そこにあつた巨大大樹の表面が輝いているのに気付いた光司郎達は
急ぎ向かった。

光司郎が表面を調べようとした時、突然黒い弾丸が表面を吹き飛ば
した。

そこには、五闘士達と同じように操られた太一、ヤマト、銀時…そ
して黒いオメガモンがいた。

ミミ「太一さん！正気にもどって！」

太一「…敵を排除しろ。」

ダークオメガモン「ダークグレイソード！」

ズドモン・アトラーカーブテリモン「うわぁー！」

光司郎「アトラーカーブテリモン！」

丈「ズドモン！」

ガルダモン「オメガモン、許して！シャドーウィング！」

リリモン「正気を取り戻して！フラウカノン！」

オメガモン「…無駄だ。」

すると、背中に付いてる漆黒のマントで弾き返した。

リリモン・ガルダモン「キャーッ！」

丈「光司郎、ハイパージョグレスだ！」

光司郎「でも…！」

丈「あの五闘士達の時みたいに聖なる矢で正気を取り戻させるんだ！」

光司郎「…分かりました！空さん、ミミさん！」

空「ええ、ガルダモン！」

ミミ「リリモン、ハイパージョグレス進化よ！」

アトラークブテリモン「よっしゃ、いきまっせ！」

ズドモン・アトラークブテリモン「ズドモン！アトラークブテリモン！ハイパージョグレス進化！ボルジスモン！」

ガルダモン・リリモン「ガルダモン！リリモン！ハイパージョグレス進化！リーフィモン！」

リーフィモン「リーフストリーム！」

オメガモン「ダークガルルキャノンバースト！」

聖なる力を持った葉が邪悪な冷気の弾の雨を押し返しかけた。

空「いけるわ！」

ミミ「ま、まって！」

突然、空から銀時が降ってきてリーフィモンに強烈な一撃を与えた。

リーフィモン「うそ！？キヤーツ！」

空「リーフィモン！」

ボルジスモン「この！ライジングホーン…、」

ボルジスモンが技を放つより先にダークオメガモンが暗黒のグレイソードでボルジスモンを斬りつけた。

銀時「…トドメだ。」

光司郎「ヤバい…！」

銀時が大刀を振り上げた。

神楽「喰らうネ！神楽バースト！」

すると、銀時の背後から、神楽が現れ傘の先端から、キャノンを発射した。

銀時「！！！？」

銀時は、不意をつかれ、直撃し壁に叩きつけられ気絶した。

神楽「ハアハア、銀ちゃんはなんとかなったアル。」

ミミ「神楽さん！」

神楽が気を抜いた瞬間、黒いガルルキャノンが当たった。

神楽「…しまったネ…。」

神楽は力なく地面に倒れた。

光司郎「か、神楽さーん！」

空「リーフィモン！お願い、助けて！」

リーフィモン「う、うん！ヒーリングソング！」

リーフィモンの聖なる歌により神楽の傷は治癒されていった。

丈「もう、大丈夫だ。あとは、太一達を元に…戻す！」

光司郎「しかし、ダークオメガモンに隙がなくて、下手に技を放つと逆にやられます…！」

ヤマト「…いけ、ダークオメガモン…！」

ダークオメガモン「ダークグレイソード！」

ボルジスモン「ライジングホーンブレイカー！」

リーフィモン「ブリージングアロー！」

雷の力と緑の力が暗黒の力と激突した。

光司郎「このままじゃ…！」

すると、突然太一達が苦しみだした。

太一「…光司郎…みんな…？」

光司郎「太一さん！？まさか、元に…！」

ヤマト「…俺達を…倒せ…！！頼む…俺達を…！」

空「そんな…いや～！！まだ、何か方法が…！！」

ミミ「そうよ！諦めないで！」

ダークオメガモン「…頼む…もう…俺達は…ぐあああ…！！」

太一・ヤマト「うあああ…！！」

リーフィモン「太一、ヤマト…！」

太一・ヤマト「…敵を排除せよ…！」

光司郎「…ボルジスモン、アルティメット・チャージ・ストライク
です…！！」

全員「光司郎!!?」

空「そんな、まだ何か?!」

ミミ「太一さん達を犠牲にしているの!?!」

光司郎「…嫌に決まってるでしょ!?!」

光司郎の眼は、涙を耐えようとしているが、ただ漏れしていた。

光司郎「…だけど、太一さん達を敵に操られて、酷い事をこれ以上させたいんですか!?!」

ボルジスモン「光司郎…。」

丈「…分かった。ボルジスモン…頼む…!?!」

ミミ「丈先輩!そんな…!」

空「ミミちゃん…これ以上太一達を苦しめさせたくないわ…!?!だから…。」

リーフィモン「私は空とミミの指示に従うわ、だけどミミ、あなたは、太一達に悲しい思いをさせたいの…?」

ミミ「そんなの、イヤよ!…だから…リーフィモン…お願い…。」

ダークオメガモン「…敵を排除する。ダークグレイソード&ダーク

ガルルキャノンバースト！」

黒い弾丸の雨と凄まじい斬撃が光司郎達を襲った。

リーフィモン「ミミと空、そして私…の力を一つに！ブリージング
アロー！」

ボルジスモン「光司郎と丈のまつすぐな心の光を力に！アルティメ
ット・チャージ・ストライク！」

黒い弾丸の雨と斬撃は浄化の光の矢に消し飛ばされた。

リーフィモン・ミミ・空「いまよ！ボルジスモン！」

ボルジスモン「ウオオーーー！！」

光司郎・丈「いけーーー！！」

ボルジスモン「さよなら、太一、ヤマト…オメガモン…。ウオオー
ーーー！！」

太一「ヒカリ、太輔を頼むぜ…。」

ヤマト「タケル達もな…。」

オメガモン「今まで、有難う…。…じゃあな…。」

光司郎「太一さーーーん！」

ミミ「…太一さん…。」

空「ヤマトー!!!」

リーフィモン・ボルジスモン「…オメガモン……………」。

子供達は、また一つ悲しみを味わった。

しかし、彼らは気付かなかった、グランドデジコアの中に4つの影があることを…。

T o b e c o n t i n u e d … .

超特別編！究極バトル！激突！歴代デジモン・前編（前書き）

えーと、まず更新が遅れてしまってますいません？

まさか、携帯の故障＋嘔吐下痢が重なってしまって本当に申し訳ありませんでした。

今回の番外編には、大人気あの小説のキャラクターが登場するの
では是非見てください！

デジファン「ティマーズからは、瑠姫とタオモン、フロンティアからは泉またはフェアリモン！」

ババモン「デジモンエグザからはシオリとエンジェウーモンじゃ！」

リュウ「ふん、第一グループは女同士の対決か。」

デジファン「あっ、いつの間に？」

リュウ「今、さっき。」

ドラコモン「な、腹減った！」

リュウ「こいつは、おいといてさっさとはじめようぜ。」

デジファン「…そうですね？では、試合開始！」

カアアアアーン！！！！

ミミ「手加減しないわよ！ヒカリちゃん、京ちゃん！パルモン、お願い！」

パルモン「パルモン、超進化！リリモン！」

京「こっちだって！ヒカリちゃん！」

ヒカリ「ハイ！京さん！」

ホークモン「ホークモン、進化！アクイラモン！」

テイルモン・アクイラモン「テイルモン！アクイラモン！ジヨグレス進化！シルフィーモン！」

泉「それじゃあ、私も！スピリットエボリューション！フェアリモン！」

リリモン「フラウカノン！」

シルフィーモン「なんの、トップガン！」

緑のエネルギー弾を赤いエネルギー弾が相殺して爆発した。

フェアリモン「ふふふ、私もいるわよ。ブレッザ・ペタロ！」爆発した時に出来た煙からフェアリモンが出てきていくつもの竜巻を2体がかけ放った。

リリモン・シルフィーモン「きゃーっ！」

葵「いきなり、激しいバトル勃発だね。」

デジファン「女同士の戦いで怖いね…。」

全員「……うん……。」

瑠姫「さっ私達もはじめましょ。レナモン！」

シオリ「そうね。プロットモン！」

アーク「MATRIX EVOLUTION」

タオモン「タオモン！」

プロットモン「プロットモン！超進化！エンジェウーモン！」

タオモン「行くぞ！狐封殺！」

エンジェウーモン「受けて立つわ！ヘブンスチャーム！」

タオモンの放った数枚の札を十字の光の帯が消し去った。

タオモン「オン！」

タオモンはすぐさま印をきり結界をつくり十字の帯を弾いた。

エンジェウーモン「まだよ！ホーリーアロー！」

タオモンの結界を光の矢が貫きかける。

瑠姫「タオモン！カードスラッシュ！エリアス！」

エンジェウーモン「これでどう！2連ホーリーアロー！」

2本の光の矢が結界を貫きタオモンに刺さる…前にタオモンは消えた。

エンジェウーモン「消えた!？」

シオリ「エンジェウーモン、後ろ！」

エンジェウーモン「え!?!うそっ!?!」

後ろを向くと五体のタオモンがいた。

ドラコモン「どういうこと!?!」

リュウ「ばか、タオモンが貫かれる前に、瑠姫はカードをスラッシュしてたろうが。」

瑠姫の手のひらにはエリアスのカードがあった。

瑠姫「そうよ、このカードは分身を作り出せるの。タオモン!」

タオモン「「「「凡筆閃!」「」「」」」

五体分のタオモンの攻撃を受けエンジェウーモンはプロットモンに退化した。

シオリ「プロットモン!」

プロットモン「…ごめん、負けちゃった。」

シオリ「そんな事気にしないでいいわ、プロットモンはあんなにがんばったんだから。」

プロットモン「シオリ…ありがとう。」

葵「見事な逆転だね。」

デジファン「ああ、だけど、プロットモンも頑張ってたよ。」

リュウ「あいつも、デジモンJETの仲間だからな。」

ドラコモン「あっ！あっちも決着つきそうだよ！」

シルフィーモン「デュアルソニック！」

フェアリモン「トルナード・ガンバ！」

シルフィーモンの繰り出したデュアルソニックはフェアリモンのトルナード・ガンバによって消し飛ばされた。

リリモン「グリーントラップ！」

突然、地面から太い蔦がでてきて、シルフィーモンとフェアリモンに絡まり動きを封じた。

フェアリモン「きゃっ!?!」

シルフィーモン「これは!?!」

リリモン「うふふ、これで私の勝ちね。フラウカノン！」

動けないシルフィーモンとフェアリモンにフラウカノンを放とうとしました。

空「惜しかったわね、だけど残念、私達を忘れてるわよ。ガルダモン！」

ガルダモン「シャドーウィング！」

ガルダモンの体から鳥の形をした炎がリリモンとシルフィーモンに当たった。

リリモン「きゃーッ！」

シルフィーモン「ウワァー！」

シルフィーモンとリリモンは退化してポロモン、プロットモン、タネモンになった。

リュウ「すげー威力だな。」

ドラコモン「一気に2体倒しちゃったね。」

ババモン「しかし、まだフェアリモンがおるぞ。」

ガルダモン「どこに行ったの!？」

フェアリモン「フェアリモン!スライドエボリューション!シューッモン！」

葵「スライドエボリューションはしてもOKなの?」

デジファン「まあ、いいでしょう。」

リュウ「随分適当だな?」

シューッモン「受けなさい!ウィンドオブペイン!」

ガルダモン「負けるものですか!シャドーウィング!」

強烈な竜巻と火の鳥がぶつかり合った。

タオモン「瑠姫、私達も負けられない。」

瑠姫「そうね！二人は電気技が苦手なはず、カードスラッシュ！ア
トラーカーブテリモン！」

タオモン「ギガブラスター！」

ガルダモン「うそっ！？きゃー！」

ギガブラスターをシューツモンはなんとか回避したが、ガルダモン
はかわせず、直撃した。

瑠姫「1体外した！？もう一回！」

シューツモン「隙あり！ギルガツメシュ・スライサー！」

タオモン「しまった！」

技を放つ隙について、シューツモンは得意技を放った。

タオモンはレナモンに退化した。

リュウ「最後の反撃は良かったな。」

ドラコモン「最強に見えるカードスラッシュにも弱点があったんだ
ね。」

デジファン「第一グループの優勝は、見事な大反撃をしたシューツモンです！」

葵「中編は男子の完全体デジモンが登場！」

ババモン「デジモンエグザで大活躍したあいつらが登場するんじゃない！」

デジファン「それでは、前編終了！中編へ続く！」

リュウ「最後に、俺達デジモンJETが活躍してるデジモンエグザ02もよろしくな！」

ドラコモン「なあ〜リュウ〜俺達あれやってないぜ？」

リュウ「そうだったな！じゃあ、いくぜ！オレ達は頼まれたら何でもするよるす屋…、その名も…！」

ドラコモン・リュウ「デジモン JETだ！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2766n/>

デジモン魂～万事屋と選ばれし子供たち～

2011年10月7日21時21分発行